

彙 報

2019年（平成31年）4月～2020年（令和2年）3月

研究状況 （2019年度）

公募型研究班

フーコー研究—人文科学の再批判と新展開

班長 小泉義之

研究期間 2017年4月—2020年3月（3年度目）

研究実施状況

本年度は全4回（ただし各2日）の例会（内1回は公開国際シンポジウム、及び公開合評会の形をとる）、及び公開研究会1回、公開講演会1回を催し、計21本の発表と、それに続く討論を軸に共同研究が進められた。しかし、コロナウイルス感染拡大リスクに備え、予定されていた最後の例会（第5回例会）を中止せざるをえず、不完全燃焼感の残る締めくくりとなった。しかし本年度は9月に、本研究班中間報告として、雑誌『思想』（岩波書店）上に計10編の論考（内1編は翻訳）から成る特集「未完のフーコー」を出版し、好評を得た。来年度1年間をかけて編まれる二冊の成果報告書に、この勢いをつなげたい。本年度の研究内容としては、前2年間の潜在的な傾向が顕著になり、フーコー最晩年のキー概念である「パレーシア」をいかに整合的かつ発展的に捉えるかという問いに、研究班全体の関心がいわば収斂していったように見える。それが第4回例会の両日を通じてのテーマになったことで、本研究班は事実上「パレーシア」によって締めくくられたといえる。

研究班員

所内：立木康介、佐藤淳二、森本淳生、瀬戸口明久、藤井俊之

学内：田中祐理子（京都大学白眉センター）、武田宙也（京都大学大学院人間・環境学研究科）、TAJAN, Nicolas（国際高等教育院）

学外：小泉義之（立命館大学）、王寺賢太（東京大学）、市田良彦（神戸大学）、長原豊（法政大学）、上田和彦（関西学院大学）、布施哲（名古屋大学）、佐藤嘉幸（筑波大学）、廣瀬純（龍谷大学）、隠岐さや香（名古屋大学）、前川真行（大阪府立大学）、北垣徹（西南学院大学）、中井亜佐子（一橋大学）、千葉雅也（立命館大学）、松本潤一郎（就実大学）、西迫大祐（沖縄国際大学）、相澤伸代（東京経済大学）、藤田公二郎（西南学院大学）、櫻田和也（大阪市立大学）、箱田徹（天理大学）、上尾真道（滋賀大学）、堀尾耕一（一橋大学）、春木奈美子（龍谷大学）、久保田泰考（滋賀大学）、坂本尚志（京都薬科大学）

研究実施内容

2019年

4月20日 特別例会（講演会）

The Will to Strategy: Foucault's Interregnum, 1976-79

発表者：WALKER, Gavin
（マッギル大学 カナダ）

5月18日 第1回例会（1日目）

過剰な真理の fuite en avant —— 80年代講義と『性の歴史』を併せ読む

発表者：市田良彦（神戸大学）

- 分割前夜と“迷える者”——「真理の
勇気」周辺 発表者：布施 哲
(名古屋大学)
- 5月19日 第1回例会(2日目) 2020年
「われわれ」とは誰か? —— パレーシ
アする主体の存在論
発表者：坂本尚志(京都薬科大学)
最後のパレーシア/パレーシアステー
スから初期まで遡行する —— 新しい
真理の政治, 真善美の存在論
発表者：小泉義之(立命館大学)
- 6月15日 特別例会(公開講演会)
Foucault and Marx in the Contempo-
rary World: War, Governmentality
and Beyond
発表者：MEZZADRA, Sandro
(ボローニャ大学 イタリア)
- 7月13日 第2回例会(1日目)
福祉国家とネオリベラリズム —— 『生
政治の誕生』の周辺
発表者：前川真行(大阪教育大学)
監獄の科学, 視覚のエコノミー
発表者：北垣 徹(西南大学)
- 7月14日 第2回例会(2日目)
個体の真理・科学の行方
発表者：小泉義之(立命館大学)
『言葉と物』における労働価値説批判
と歴史
発表者：松本潤一郎(就実大学)
- 9月28日 第3回例会(1日目)
心理・言語・性 —— ミシェル・フー
コーによる精神分析の横断
発表者：上尾真道
『知の考古学』と「数学という例外」
—— ダヴィド・ラプアーンによるミ
シェル・フーコー批判の紹介
発表者：隠岐さや香(名古屋大学)
- 9月29日 第3回例会(2日目)
La fin de la clinique (臨床科学の終焉)
発表者：TAJAN, Nicolas
(大学院人間・環境学研究科)
- まなざしと言語の関係について ——
『臨床医学の誕生』から
発表者：立木康介
- 1月25日 公開国際シンポジウム「批判と真理
—— パレーシアについて」(第4回例
会1日目を兼ねる)
主体性, 批判, 真理
発表者：SABOT, Philippe
(リール大学 フランス)
ソフィストはいかにしてパレーシアス
トになったか?
発表者：市田良彦(神戸大学)
- 1月26日 公開合評会「ドゥルーズ, フーコー,
小泉の霊性」—— 小泉義之著『ドゥ
ルーズの霊性』をめぐって(第4回例
会2日目を兼ねる)
小泉『霊性』書へコメント
発表者：廣瀬 純(龍谷大学)
霊の世俗性, 序説
発表者：千葉雅也(立命館大学)
(書評) 発表者：市田良彦
(神戸大学)
- 1月30日 特別例会(公開セミナー)
Vérité et fiction selon Michel Foucault
(ミシェル・フーコーによる真理と
フィクション)
Michel Foucault et les aventures de la
vérité 発表者：SABOT, Philippe
(リール大学)
De l'imaginaire à l'esthétique : les fic-
tions chez Michel Foucault
発表者：坂本尚志(京都薬科大学)
- 日本鍼灸術の形成 — 近世医学史の再構築
班長 長野 仁
研究期間 2018年4月—2021年3月(2年度目)
研究実施状況
近世から現代へと受け継がれてきた鍼灸術の流
儀書, 伝授書を読解し, 流派の形成過程や伝授形式
を明確にすることで, 日本医道の技術的伝統を復権

させ、近世医学史の再構築を図る。本年度は、近世社会に大いに発達した針術、灸法について、特別講師や班員の研究発表を通して週及的な考察を試み、その源流と発展の具体的様相を探った。とりわけ、『五体身分抄』『五体身分集』という中世の抄物医書について、『医心方』から『福田方』に至る間の空白を埋める資料的価値を見出し、東京国立博物館資料館等の資料調査を行うとともに、研究班での討議を踏まえて、2020年1月12日に北里大学で開催された第7回鍼灸医学史研究発表会で研究発表を行った(長野仁、富田貴洋の共同発表)。そのほか、松江歴史館学芸員・西島太郎氏、いづも財団事務局次長・梶谷弘氏、鳥根県立盲学校教諭・渡部良平氏と連携しての芦田家文書整理作業を計画し、目録作成の検討会をおこなった。また、戦国武将と医薬学に関する古医書について東京大学史料編纂所、熊本県立美術館、内藤記念くすり博物館等の所蔵資料を調査、蒐集し、明智光秀の『針薬方』めぐっては、NHK京都放送局と連携した公開イベントを企画し、2020年2月8日に芝蘭会館山内ホールにて開催した。

研究班員

所内：武田時昌，古勝隆一，高井たかね，平岡隆二

学内：赤澤久弥(附属図書館)，成高雅(人間・環境学研究所)，中神由香子(医学研究科)，劉青(人間・環境学研究所)

学外：荒川緑(東洋鍼灸専門学校)，猪飼祥夫(猪飼鍼灸・院長)，ウォルフガング・ミヒェル(九州大学)，浦山きか(森ノ宮医療大学)，浦山久嗣(赤門鍼灸柔整専門学校)，大浦宏勝(はりきゅう処 路傍庵)，郭秀梅(順天堂大学)，加畑聡子(二松學舎大学大学院)，紀野江理(森ノ宮医療学園専門学校)，小曾戸洋([公財]武田科学振興財団杏雨書屋)，佐々木啓(鍼灸鴻仁)，島山奈緒子(明治国際医療大学)，鈴木達彦(平成帝京大学)，高津孝(鹿児島大学)，多田伊織(鈴鹿医療科学大学)，谷田保啓(たにだ鍼灸院)，中神源一(中神内科クリニック)，長谷川佳与子(奈良女子大学大

学院)，東昇(京都府立大学)，深水美和(専門学校 大阪医専)，松木宣嘉(四国医療専門学校)，真柳誠(茨城大学)，三鬼丈知(大谷大学)，物部陽明(森ノ宮医療学園)，横山浩之(森ノ宮医療大学)，吉永進一(舞鶴工業高等専門学校)，梁永宣(北京中医薬大学)，和辻直(明治国際医療大学)

研究実施内容

2019年

6月2日 第6回「日本鍼灸医術の形成」研究会『痧脹晰義』について

発表者：池内早紀子

(大阪府立大学・博士課程)

『鍼灸要法』について

発表者：谷田保啓

(たにだ鍼灸院・院長)

中世イスラム医学の焼灼法と器具について — 10世紀スペインの医学者ザフラーウィー(ラテン語名アブルカシス)の『医学詳解』から —

発表者：尾崎貴久子

(防衛大学校・准教授)

9月8日 第7回「日本鍼灸医術の形成」研究会見立て論—西洋医学と東洋医学ではなぜ診断がことなるのか

発表者：猪飼祥夫(猪飼針灸院長・

北里医史研客員研究員)

砭石について—老官山出土医学資料から

発表者：猪飼祥夫(猪飼針灸院長・

北里医史研客員)

易緯通卦驗に見る二十四経脉経

発表者：猪飼祥夫(猪飼針灸院長・

北里医史研客員)

11月3日 第8回「日本鍼灸医術の形成」研究会『五体身分抄』と『五体身分集』の成立問題

発表者：富田貴洋

(勇貴堂鍼灸院・院長)

日本における灸罰の歴史

発表者：舟木宏直

人 文 学 報

- (京都仏眼鍼灸医療専門学校・専任教員)
- 2020年
- 2月8日 一般公開セミナー「明智光秀は名医!? だった — 転換期の医術と戦国武将 —」(第9回「日本鍼灸医術の形成」研究会)
「光秀所伝『針葉方』の薬方と鍼灸
発表者: 長野 仁
(森ノ宮医療大学大学院)
中世日本における金瘡医の出現と金瘡書の成立
発表者: 鈴木達彦
(帝京平成大学薬学部)
『針葉方』を伝えた男, 米田貞能とは?
発表者: 山田貴司
(熊本県立美術館)
越前一乗谷の医薬史と明智光秀の前半生
発表者: 石川美咲
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)
明智光秀 — 牢人医師はなぜ謀反人となったか —
発表者: 早島大祐
(関西学院大学文学部)
- 2月9日 府民公開講座「鍼の聖地いばらき in OSAKA 早春ハラノムシまつり」
令和の鍼灸 — 新時代の可能性 —
発表者: 矢野 忠
(明治国際医療大学)
- 3月1日 富山鍼灸学会学術講演会(第10回「日本鍼灸医術の形成」研究会)
ヒストリアの秘話 — 明智光秀と医術 —
発表者: 長野 仁
(森ノ宮医療大学大学院)
科学史家が占う日本鍼灸の未来
発表者: 武田時昌
(京都大学人文科学研究所)
- 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究
班長 三輪眞弘
- 研究期間 2019年4月—2022年3月(1年度目)
- 研究実施状況
- 本年度は計7回の研究会を開催し、延べ88名の参加者を得た(うち女性10名、理系研究者15名)。また8月の研究会では三輪および佐近田によるメディアアート「フレディとレナの原フォルマント」が試演され、これを思考実験モデルとして参加者の間で議論が行われ、9月および2月には本研究会における議論に基づいた三輪による作品が初演された。理系研究者(生命科学および情報科学)も定期的に研究会に参加するなど、アートを媒介として理系および文系研究者が一堂に会し、テクノロジーの問題を議論しつつ、得られた認識をアートの形で社会発信するという当初の目的はおおむね達成されている。また9月の三輪作品は中部新聞に紹介記事が出るなど、社会的反響も得られつつある。
- 研究班員
所内: 岡田暁生, 瀬戸口明久, 佐藤淳二, 藤井俊之, 上尾真道
学外: 松井茂(情報科学芸術大学院大学), 佐近田展康(名古屋学芸大学), 山崎雅史(株式会社NTT データセキスイシステムズ), 岩崎秀雄(早稲田大学)
- 研究実施内容
- 2019年
- 4月9日 「話したい人」と「見せたい人」と「やってみたい人」—— 人工学としてのアートの可能性を考える
発表者: 岡田暁生
- 6月14日 ビッグ・データ入門
発表者: 瀬戸口明久
- 8月14日 人工音声の現象学
発表者: 名古屋学芸大学
(名古屋学芸大学)
「機械」の自律性とテクノロジーの論理
発表者: 名古屋学芸大学
(名古屋学芸大学)
- 8月15日 「三輪眞弘を理解するために: 要約表」
説明
発表者: 山崎雅史
(株式会社NTT データセキスイシステムズ)
- 10月5日 人新世の人類学 — 減びゆく世界のなかで生きるということ

発表者：田辺明夫
 11月13日 人新世の人類学
 人新世におけるアートと哲学 「人間以後」における思考と実践
 発表者：篠原雅武

2020年

1月24日 製作検討会

「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究

班長 外村 中

研究期間 2019年4月-2022年3月(1年度目)

研究実施状況

班長が海外在住のため、年間四度の来日(6月・9月・12月・3月)に合わせて四回の研究会を実施する計画を立てた。各回毎に統一テーマを設定し、連続する二日間に一日あたり二本、計四本の研究発表を行うこととした。開催にあたっては、当班の掲げる研究課題に取り組む上で特に重要な文献を選定し、各回の統一テーマに掲げた。初年度である本年度は仏典に注目し、第一回は『涅槃経』、第二回は『法華経』、第三回は『華嚴経』、第四回は『般若経』『維摩経』『大智度論』を対象とした。各回ともまず最初に班長が、当該文献の内容分析を踏まえてキーワードや中心的な概念についてまとめ、その後三名の発表者が関連文物を取り上げるなどして各論的な研究報告を行う形式とした。第一～三回については期待した通りの実りある討論ができたが、3月14・15日開催予定の第四回はコロナウイルス流行のため、令和3年度に延期することとなった。

研究班員

所内：稲本泰生(副班長)、岡村秀典、船山徹、安岡孝一、古勝隆一、倉本尚徳、向井佑介、高井たかね、福谷彬

学内：内記理(文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター)、折山桂子(大学院文学研究科)

学外：外村中(班長)(ヴェルツブルク大学)、大西磨希子(仏教大学)、大原嘉豊(京都国立博物館)、黄盼(中国社会科学院)、重田みち(京都造形芸術大学)、清水健(奈良

国立博物館)、高橋早紀子(愛知学院大学)、瀧朝子(大和文華館)、田中健一(文化庁)、塚本明日香(岐阜大学)、中西俊英(東大寺)、中安真理(同志社大学)、西谷功(泉涌寺)、増記隆介(神戸大学)、森下章司(大手前大学)、横手裕(東京大学)、パトリシア・フィスター(国際日本文化研究センター)、シビル・ギルモンド(ヴェルツブルク大学)、ベッティーナ・ゲーシュ(関西大学)、ガリア・トドロワ・ペドコワ(京都コンソーシアム)、大平理紗(京都府立大学)、リサ・コチンスキー(南カリフォルニア大学)

研究実施内容

2019年

6月15日 『涅槃経』と関連作品

『大乘涅槃経』が説く「見える」と「見えない」もの—いわゆる涅槃図は涅槃図ではない

発表者：外村 中
 涅槃会の変遷と涅槃図—東アジア仏教社会における「忌日」を視点に

発表者：西谷 功

6月16日 『涅槃経』と関連作品

『涅槃経』および関連する仏典と懺悔儀礼—石刻資料を中心に

発表者：倉本尚徳
 北魏石窟の涅槃図 発表者：岡村秀典

9月22日 『法華経』と関連作品

『法華経』が説く「見える」ものや「見えない」もの—久遠身と方便身、一世界一仏と二仏並坐ほか

発表者：外村 中
 カローシュティ一字形からみた2,3世紀のガンダーラ仏

発表者：内記 理

9月23日 『法華経』と関連作品

『法華経』と楽器 発表者：中安真理
 日本仏教造像史と久遠の釈迦の諸相

発表者：田中健一

12月21日 『華嚴経』『梵網経』と関連作品

『華嚴経』が説く「見える」ものや
「見えない」もの—法身, 色身, 神変,
相好, 虚空ほか 発表者: 外村 中
『華嚴経』における「ヴァイローチャ
ナ」とその教理的解釈

発表者: 中西俊英

12月22日 『華嚴経』『梵網経』と関連作品
法界仏像に関する基礎的考察

発表者: 高橋早紀子

盧舎那仏と毘盧遮那仏の可視性と造形

発表者: 船山 徹

書簡的エクリチュール——ヴァレリー研究の新た
なる展開にむけて

班長 鳥山定嗣

研究期間 2019年4月—2020年3月(1年度目)

研究実施状況

9月25日(水), 京都大学人文科学研究所において研究会を開催し, 今井勉による報告「ヴァレリーと世紀末文芸誌」, および, ジッド・ルイス・ヴァレリーの『三声書簡』に関する検討を行った。12月21日(土), 同じく人文研において「愛のディスクール ポール・ヴァレリー「恋愛書簡」を読む」と題するシンポジウムを催し, 全班員が報告を行い, 35名の聴衆を得た。2月13日, 今年度の研究結果を受けて鳥山と森本が今後の展開の可能性について検討を行った。

研究班員

所内: 森本淳生

学外: 鳥山定嗣(名古屋大学), 松田浩則(神戸大学), 今井勉(東北大学), 塚本昌則(東京大学)

研究実施内容

2019年

9月25日 ポール・ヴァレリーと『三声書簡』
ヴァレリーと世紀末文芸誌

発表者: 今井 勉(東北大学)

12月21日 愛のディスクール ポール・ヴァレ
リー「恋愛書簡」を読む

抽斗にしまった手紙——ロヴィラ夫
人問題を考える 発表者: 今井 勉

(東北大学)

「カリントボールの物語」あるいは
《Ave atque Vale》 発表者: 松田浩則
(神戸大学)

恋文を書くナルシス——「愛(アム
ール)」の女性単数形をめぐって

発表者: 鳥山定嗣(名古屋大学)

ヴァレリーと犯罪——カトリーヌ・
ボッジとの往復書簡と1920年代の変
貌 発表者: 塚本昌則(東京大学)

愛のエクリチュールと「不可能な文
学」——マラルメ, 恋愛書簡, 「私の
精神の回想録」 発表者: 森本淳生

「長い19世紀」におけるインド・中国の社会経済史
の比較

班長 小川道大

研究期間 2019年4月—2020年3月(1年度目)

研究実施状況

本年度は4月14日に人文研において第1回研究会を開催し, 小川道大『帝国後のインド——近世の発展のなかの植民地化』(名古屋大学出版会, 2019年)の書評会を, 神田さやこ氏を評者として実施した。次いで7月7日に金沢大学において第2回研究会を実施し, 16~20世紀の中国・インドの経済史を中心にあつかう, 神田さやこ・城山智子編『アジア経済史——1500~2010』の構想に関して討論会を行った。同時に, 今後の中印比較史の共同研究についての目的・意義を確認し, 課題と中核となる部分についての議論を行った。12月7日には人文研において第3回研究会を実施し, 「長い19世紀」における資源配分をテーマとして土地制度・労働力・航運についての中印比較を行うとともに, 今後の研究計画を検討した。

研究班員

所内: 村上衛

学外: 小川道大(金沢大学), 岡本隆司(京都府立大学), 神田さやこ(慶應義塾大学), 木越義則(名古屋大学), 城山智子(東京大学), 田口宏二郎(大阪大学), 富澤芳亜(島根大学)

研究実施内容

2019年

- 4月14日 小川道大『帝国後のインド——近世的発展のなかの植民地化』（名古屋大学出版会、2019年）書評会
発表者：神田さやこ（慶應義塾大学）
- 7月7日 神田さやこ・城山智子編『アジア経済史——1500～2010』討論会
発表者：神田さやこ（慶應義塾大学）
発表者：城山智子（東京大学）
- 12月7日 「転換期中国・インドにおける資源配分——土地・労働力・航運」
発表者：村上 衛（人文研）
発表者：田口宏二郎（大阪大学）
発表者：富澤芳亜（鳥根大学）
発表者：神田さやこ（慶應義塾大学）
発表者：木越義則（名古屋大学）

東北アジアの騎馬文化と馬匹生産の研究

班長 諫早直人

研究期間 2019年4月—2020年3月（1年度目）

研究実施状況

2019年7月5日（金）に韓国・蔚山博物館より学芸研究士の李炫姫氏を招へいし、第1回の研究集会を開催した。李炫姫氏は韓国出土馬具を中心とした若手の考古学研究者であり、「新羅・加耶の馬文化」と題し、考古資料を中心に文献史料も含めて、古代朝鮮半島南部の馬文化についての総合的な研究成果が報告された。研究班員からは、日本の研究状況との比較、騎馬と馬車の問題、馬と牛の使用状況の比較など、さまざまな視点から意見交換がなされ、有意義な研究集会となった。2019年12月20日（金）には第2回の研究集会を開催し、総合研究大学院大学の菊地大樹氏が「中国古代養馬史の再構築」と題して研究報告をおこなった。菊地氏は中国の馬文化を専門とし、動物考古学的方法による調査・分析・研究を長年にわたって進めてきた。報告では、古典籍・出土文字資料の検討、動物考古学と理化学分析からの古代養馬技術へのアプローチ、近年の遺跡出土馬骨の分析など、さまざまな角度からの研究成果がわかりやすく提示され、それをもとに

活発な意見交換がおこなわれた。

研究班員

所内：岡村秀典、向井佑介、古松崇志、藤井律之、大谷育恵

学内：坂川幸祐（文学研究科）

学外：諫早直人（京都府立大学）、森下章司（大手前大学）、井上直樹（京都府立大学）、中村大介（埼玉大学）、青柳泰介（奈良県立橿原考古学研究所）、片山健太郎（奈良文化財研究所）、金宇大（滋賀県立大学）

研究実施内容

2019年

- 7月5日 朝鮮半島の騎馬文化と馬匹生産
新羅・加耶の馬文化
発表者：李炫姫（蔚山博物館）
東北アジアの騎馬文化と馬匹生産の研究（趣旨説明） 発表者：諫早直人（京都府立大学）

12月20日 古代中国の馬文化と馬匹生産

中国古代養馬史の再構築

発表者：菊地大樹

（総合研究大学院大学）

中国古代史像再構築のための基礎的研究

班長 土口史記

研究期間 2019年4月—2020年3月（1年度目）

研究実施状況

本年度は、まず9月に第1回研究会を開催した。9月27日に「秦代出土文字史料の研究」班と合同で里耶秦簡の会読を行ったうえで、翌28日に班長の土口が「秦代官府の空間構造」、杉村が「漢的秩序の形成過程」という題目で研究発表を行った。この発表には、土口班のメンバーの他、「秦代出土文字史料の研究」班の班員である若手研究者や外国人研究者も多数参加した。第2回研究会は2月15日開催し、福永が「前漢前半期における劉邦集団と察挙」、渡邊が「後漢明帝の帝位継承と宗室輔政」という題目で研究報告を行った。これらの研究会にはメンバーの他、「秦代出土文字史料の研究」班の班員のほか、関西圏の若手研究者・大学院生も参加した。

研究班員

所内：宮宅 潔，藤井律之，目黒杏子

学外：土口史記（岡山大学大学院），杉村伸二（福岡教育大学），福永善隆（鹿児島大学），渡邊将智（就実大学）

研究実施内容

2019 年

9 月28日 秦県官府の空間構造

発表者：土口史記（岡山大学）
漢の秩序の形成過程 — 戦国後期～秦末楚漢期の封建秩序と郡制統治 —

発表者：杉村伸二（福岡教育大）

2020 年

2 月15日 前漢前半期における劉邦集団と察挙

発表者：福永善隆（鹿児島大学）
後漢明帝の帝位継承と宗室輔政

発表者：渡邊将智（就実大学）

四天王の展開に関する研究

班長 高橋早紀子

研究期間 2019 年 4 月—2020 年 3 月（1 年度目）

研究実施状況

四天王の展開をアジア的視野から検討すべく、10 月 27 日と 3 月 20 日の二度にわたり、人文科学研究所を会場として「四天王研究の最前線」と題する研究会を実施することとした。第一回の発表者は高橋とゲストスピーカーの佐藤有希子氏（奈良女子大学）とし、班員以外の当該テーマに関心をもつ研究者にも公開した。当日は佐藤氏が急病で欠席されたためその発表原稿が代読されたが、最新の知見に基づく活発な質疑応答が行われた。第二回は班員の檜山智美が「西域北道の仏教石窟壁画に描かれた四天王とその眷属の図像」、ゲストスピーカーの三田覚之氏（東京国立博物館）が「法隆寺金堂における四天王の世界」と題する研究発表を行い、佐藤氏が前回の研究発表に関する補足コメントを行う予定であったが、新型コロナウイルスの流行で中止のやむなきに至った。

研究班員

所内：稲本泰生，岡村秀典，安岡孝一，倉本尚徳，向井佑介

学内：根立研介（大学院文学研究科），内記理（大学院文学研究科附属 文化遺産学・人文知連携センター），檜山智美（白眉センター），アヴァンツィ・カルロッタ（大学院文学研究科），折山桂子（大学院文学研究科）

学外：佐藤智水（龍谷大学），石松日奈子（東京国立博物館），外山潔（京都市立芸術大学），山名伸生（京都精華大学），佐々木守俊（岡山大学），斎藤龍一（大阪市立美術館），大西磨希子（仏教大学），濱田瑞美（横浜美術大学），上枝いづみ（金沢大学），田林啓（白鶴美術館），田中健一（文化庁），高志緑（大阪大学）

研究実施内容

2019 年

10 月27日 四天王研究の最前線

東寺講堂四天王像と壇上結界

発表者：高橋早紀子

中世絵巻にあらわされた毘沙門天像

発表者：佐藤有希子

人文学研究部

生と創造の探究 — 環世界の人文学

班長 岩城卓二

研究期間 2017 年 4 月—2020 年 3 月（3 年度目）

研究実施状況

2017 年 3 月に終了した「環世界の人文学——生きもの、なりわい、わざ」を引き継ぐ本研究班の最終年度である本年度は、昨年度同様に各班員による個別課題についての研究報告を中心に例会を開催した。また、ゲスト・スピーカーを招いた研究会や国際シンポジウムを開催し、人間と非人間的存在の関係、ならびに環世界の形成と変容に関する活発な議論を行った。個別課題研究では、次年度刊行予定の論集を意識して、その各章の統一テーマにあたる「生の理論的考察」、「非人間」、「排出と循環」、「生の実践」について、文学・哲学・科学技術社会論の視座から議論と考察を行い、環世界概念の可能性と限界が考察された。ゲスト・スピーカーを招いた研

研究会としては、5月に得丸久文氏を招き、「デジタル言語学」という分野を横断した新しい実践について知見を広げ、10月には土屋由香氏を招き、漁業という生の実践を事例としたオーラル・ヒストリー等多様な方法の可能性を考えた。また、11月には一昨年に続き能作文徳氏を招き、建築や住環境という視座から環世界論を問い直す実践のその後の展開について報告・討論を行った。12月には真鍋祐子氏による文化人類学の観点から画家・富山妙子の作品を考える報告を、新進の若手マルクス主義研究者・斎藤幸平氏に環境論からマルクス主義を読み解く報告を行い、班を超えた活発な議論が展開された。12月には、李 榮敦氏、朴美貞氏を講演者とする国際シンポジウムを行い、韓国・済州島の事例から水と生業、生活の実態に関する報告・討論を行い、学外研究者のみならず、研究者以外の参加者も多く充実した議論が展開された。

研究班員

所内：石井美保、藤原辰史、岩城卓二、岡田暁生、小関隆、瀬戸口明久、立木康介、森本淳生、池田さなえ、藤井俊之、岡安裕介、篠原雅武、沈恬恬、日高由貴、平岡隆二、ティル・クナウト、シェル・エリクソン

学内：田中祐理子（白眉センター）、石川登（東南アジア研究所）、伊勢武史（フィールド科学教育研究センター）、山越言（アフリカ地域研究資料センター）、アンドレア百合フロレス漆間（地域研究統合情報センター）、朴美貞（国際高等教育院）、高田翔（人間・環境学研究科）

学外：田中雅一（国際ファッション専門職大学副学長/京都大学名誉教授）、王寺賢太（東京大学）、イリナ・ホルカ（東京大学）、小川佐和子（北海道大学）、足立薫（京都産業大学）、井黒忍（大谷大学）、大浦康介（京都大学）、小柏裕俊（甲南女子大学）、唐澤太輔（秋田公立美術大学大学院）、河田学（京都造形芸術大学）、久保昭博（関西学院大学）、近藤秀樹（大阪教育大学）、齊藤渉（東京大学大学院）、佐塚志乃（トロント大学）、鈴木洋仁（事業構想大学院大学）、茶

園敏美（立命館大学）、橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館）、平野徹之（在ドイツ日本大使館）、堀口典子（テネシー大学）、松嶋健（広島大学大学院）、松村圭一郎（岡山大学大学院）、山崎明日香（日本大学）、鈴木和歌奈（大阪大学）、中尾麻衣香（長崎大学）、ロー・シンリン（慶應義塾大学）

研究実施内容

2019年

- 4月8日 たたら製鉄をめぐる権力と自然 — 産業維持と自然 — 発表者：岩城卓二（京都大学人文科学研究所）
- 4月20日 人殺しの花 花の誘惑 戦死への誘惑 死へ誘う花 — 政治空間におけるコミュニケーションの不透明 発表者：大貫恵美子（ウイスコンシン大学）
- 5月13日 環世界としての郷土 — 無意識における循環と再生の論理 発表者：岡安裕介（人文研）
- 5月27日 デジタル言語学：言語的人間の脳外（物理層）・脳内（論理層）における三段階知的進化 発表者：得丸久文
- 6月3日 ベケットから〈人間と環境〉（そして〈ゴミ〉？）を考える — 『しあわせな日々』が示唆するもの 発表者：大浦康介（京都大学）
- 6月24日 まなごしの奪還 — メルロ=ポンティ、ラカン、デュラス 発表者：立木康介（人文研）
- 7月8日 精霊を待ちのぞむ — 中動態としての憑依 発表者：石井美保（人文研）
コメント 発表者：佐藤淳二（人文研）
- 7月22日 幽鬼の森の保全：ギニアの人為的景観に見るコンヴィヴィアリティ 発表者：山越 言（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）
- 10月28日 マグロ漁師が冷戦を変える？ — 1950～60年代の遠洋漁業と越境性 — 発表者：土屋由香

(京都大学人間・環境学研究科) 近代京都と文化

Oosa Ryuo and the Anti-imperialist
Left's Awkward Relationship with Nature
発表者：Till Knautd
(京都大学人文科学研究所)

班長 高木博志

研究期間 2017年4月-2022年3月(3年度目)

研究実施状況

11月18日 寄せ集め・繋ぎ直しの建築
発表者：能作文徳(東京電機大学)
還世界を渡り歩く～そして人類学者は
腹を下す 発表者：松村圭一郎
(岡山大学)

本年度は、近代京都の文化について全10回の研究会を行い、絵画・建築・文学など芸術分野に力点をおき、新出史料の紹介や検討を行った。特に本年度の活動としては、文献・絵画・建築・造園など多様な形態の新出資料や実践が各報告者により提示され、その性格や研究史上の意義について綿密な討論を重ねたことが特筆される。本研究班の特徴は、会議室に止まらず京都を始めとする近代都市を実際に目で見て議論を重ねる点にある。9月21日には「近代の彦根城と直弼顕彰」と題して班員・市川秀之氏の案内で彦根市内の史蹟を巡見した。また、班外のゲスト・スピーカーや大学以外の現場で調査・研究に携わる多くの研究者に報告の門戸を開いている点も重要な特徴である。4月20日にはウィスコンシン大学の大貫恵美子氏、5月13日には経済学研究科の大学院生・瀧本哲哉氏、学芸員の里見徳太郎氏など、班外からのゲスト・スピーカーを招き、活発な議論を行った。更に、即位の儀礼がまさに行われていた11月10日には、「現場から考える天皇制」と題した公開シンポジウムを行い、一般からも多くの参加者を得た。

11月25日 「密殖」の誕生：英虞湾と京都大学を中心
に(1930年代～1960年代)
発表者：シェル・エリクソン
(京都大学文学研究科)
明治中期の産業・政治・皇室―品川
弥二郎の諸活動から
発表者：池田さなえ
(京都大学人文科学研究所)

研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、永田知之、福家崇洋、
高階絵里加、池田さなえ

12月9日 海とチャーマン：富山妙子，“魂振り”
の絵にみる「海」のシンボリズム
発表者：真鍋祐子(東京大学)

学内：田中智子(教育学研究科)、谷川穰(文学
研究科)、木下千花(人間・環境学研究科)、
藤原学(人間・環境学研究科)、齋藤紅葉
(法学研究科)

12月16日 水と暮らし― 済州島のふたつの事例
から
済州島の水、魚そしてその利用
発表者：YOUNG-DON LEE
(済州大学校)

学外：イリナ・ホルカ(東京大学)、高久嶺之介
(同志社大学)、中川理(京都工芸繊維大
学)、北野裕子(龍谷大学)、丸山宏(名城
大学)、ジョン・グリーン(国際日本文化
研究センター)、中野慎之(文化庁)、大矢
敦子(京都文化博物館)、清水重敦(京都
工芸繊維大学)、植田彩芳子(京都文化博
物館)、加藤政洋(立命館大学)、市川秀之
(滋賀県立大学)、長志珠絵(神戸大学)、

グローバル済州と移住現況
発表者：朴 美貞(立命館大学)

12月23日 人新世のマルクス 気候危機とポスト
資本主義 発表者：齋藤幸平
(大阪市立大学)

食糧危機は天災なのか― 日本近世の
飢饉研究の新視点―
発表者：武井弘一(琉球大学)

2020年

1月20日 キリシタン時代の科学と宗教
発表者：平岡隆二(人文研)
華北生活用水史試論― 井戸とため池
をめぐる日常史―
発表者：井黒 忍(大谷大学)

玉城玲子 (向日市文化資料館), 原田敬一 (佛教大学), 国賀由美子 (大谷大学), 山本真紗子 (立命館大学), 本康宏史 (金沢星稜大学), 平山昇 (九州産業大学), 日向伸介 (大阪大学), 北野裕子 (龍谷大学), 鈴木則子 (奈良女子大学), 細川光洋 (静岡県立大学), 小川佐和子 (北海道大学), 土田真紀 (同志社大学)	帝国の調整者としての女王——比較対象としてのイギリス 発表者: 井野瀬久美恵 (甲南大学) 「反日」「非国民」「不敬」をつなぐもの——民族的他者を析出する装置としての天皇制 発表者: 駒込 武 (京都大学) バンパンといわれたおんなたちと「天皇制」のおとこたち 発表者: 茶園敏美 (人文研) 天皇制と現代文明の行方 発表者: 福家崇洋 (人文研)
研究実施内容	
2019年	11月30日 天皇は何のためにあるのか: 令和の皇位継承を考える 発表者: ジョン・グリーン (国際日本文化研究センター) 天皇の代替りと渋沢栄一—明治神宮をめぐる「意図せざる結果」— 発表者: 平山 昇 (九州産業大学)
4月6日 近代仙台と民俗の変遷 発表者: 佐藤雅也 (仙台市歴史民俗資料館)	12月21日 台湾への武徳殿の波及とその意味 発表者: 中川 理
4月20日 人殺しの花—政治空間におけるコミュニケーションの不透明性 発表者: 大貫恵美子 (ウイスコンシン大学)	2020年
5月13日 戦間期における京都の遊郭—経済的側面の考察— 発表者: 瀧本哲哉 (京都大学経済学研究科)	1月25日 柳宗悦の京都時代—なぜ民芸運動は京都で始まったのか 発表者: 土田真紀 (同志社大学)
6月9日 京都と夢—南蛮・野長瀬晩花・花街 発表者: 高木博志 (人文研) 太田喜二郎と藤井厚二 発表者: 植田彩芳子 (京都文化博物館)	暴力・宗教・性の語りをめぐる 班長 菊地 暁
7月6日 名古屋城二之丸庭園の復元整備に向けて—絵図と発掘からの検証— 発表者: 丸山 宏 (名城大学)	研究期間 2018年4月—2020年3月 (2年度目)
9月21日 彦根巡見—近代の彦根城と直弼顕彰	研究実施状況
10月26日 近代タイにおける「王都」と「古都」—ラタナコーシン (バンコク) 王朝の行幸・儀礼・考古学行政に着目して— 発表者: 日向伸介 (大阪大学)	今年度は、本研究の最終年であり、発表より原稿執筆に時間を割くことにした。10月末に原稿をまとめ、編集作業に取り掛かっている。また、10月に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された日本南アジア学会にてパネルを組織し本研究の成果の一部を発表した。
11月10日 現場から考える天皇制 近代天皇制と天皇就任儀式 発表者: 高木博志 (人文研)	研究班員
「象徴天皇」とは何か?—天皇制の中に生きる私たちの自由と権利と責任 発表者: 池田浩士 (京都大学)	所内: 石井美保, 菊地 暁 学内: 藤倉康子 (東南アジア地域研究研究所), 岩谷彩子 (人間・環境学研究科, 地球環境)

堂), 島田有紗 (人間・環境学研究科 博士課程), 川本直美 (人間・環境学研究科 博士課程)

学外: 田中雅一 (国際ファッション専門職大学), 河西瑛里子 (国際ファッション専門職大学), 中屋敷千尋 (日本学術振興会), 澤野美智子 (立命館大学), 村上薫 (独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所), 東聖子 (近畿大学), 赤堀雅幸 (上智大学), 小牧幸代 (高崎経済大学), 辻上奈美江 (上智大学), 内藤順子 (早稲田大学), 嶺崎寛子 (愛知教育大学), 齋藤剛 (神戸大学), 佐々木祐 (神戸大学), 和崎聖日 (中部大学), 工藤正子 (京都女子大学), 川西孝男 (東京大学)

研究実施内容

2019 年

7月6日 インド刑法 377 条 発表者: 山崎浩平
インド領パンジャブ出身移民女性が経験するジェンダーに基づく暴力的状況 発表者: 東 聖子 (近畿大学)

9月6日 帝国日本と少女歌劇
趣旨説明と資料紹介: 宝塚少女歌劇と民俗学 司会: 菊地 暁
日本少女歌劇座について

発表者: 鶴飼正樹 (京都文教大学)

宝塚少女歌劇と小林一三の国民劇構想

発表者: 宮本直美 (立命館大学)

東アジアの少女歌劇系芸態: 台湾を中心に

発表者: 細井尚子 (立教大学)

巡回ミュージカル草創期における明月社と黎錦暉

発表者: 貴志俊彦

(東南アジア地域研究研究所)

芸能の場の再検討

発表者: 三須祐介

(立命館大学)

音楽からみる少女歌劇

発表者: 輪島裕介 (大阪大学)

少女/演劇/写真

発表者: 佐藤守弘

(京都精華大学)

10月26日 ネパールにおける性・暴力・労働: 元不可触民の移動の経験

発表者: 藤倉康子

(東南アジア地域研究研究所)

女王エリザベス 1 世の神秘主義と英国

東インド会社創設: ジェンダー的視点

からみた統治, 外交と戦争, 宗教政策

そして理想世界 発表者: 川西孝男

(東京大学史料編纂所)

10月27日 吉原遊廓跡見学

「ヴァードウーラ・シュラウタストラ」研究

班長 藤井正人

研究期間 2015 年 4 月 - 2020 年 3 月 (5 年度目)

研究実施状況

ヴァードウーラ・シュラウタストラの第 8 章 (アグニチャヤナ祭) を研究対象にして, 井狩 (班長) が校訂テキストと訳注を作成し, 研究会で報告するとともに, 参加者全員によって検討を行った。昨年度と同様に, テキストの会読を中心に, 補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。

研究班員

所内: 藤井正人, 井狩彌介

学内: 横地優子 (文学研究科), 天野恭子 (白眉センター), 八木綾子 (文学研究科・非常勤講師), 高橋健二 (文学研究科・博士後期課程), 趙世弘 (文学研究科・博士後期課程)

学外: 伊澤敦子 (国際仏教学大学院大学・図書館職員), 永ノ尾信悟 (東京大学・名誉教授), 大島智靖 (東京大学・研究員), 尾園絢一 (東北大学・専門研究員), 梶原三恵子 (東京大学), 川村悠人 (日本学術振興会海外特別研究員), 小林正人 (東京大学), 柴崎麻穂 (中村元東方研究所・専任研究員), 手嶋英貴 (京都文教大学), 堂山英次郎 (大阪大学), 名和隆乾 (大阪大学), 西村直子 (東北大学・非常勤講師), 山田智輝 (大阪大学・研究員)

研究実施内容

2019 年

5月17日 Vadhula Srutasutra 8 Prapathaka: Contents Survey 発表者: 井狩彌介

- 6月14日 Carrying forth of Agni (agnipraharana) and oblations 8.48.1-50.10
 発表者：井狩彌介
- 7月12日 Carrying forth of Agni (agnipraharana) and oblations 8.48.1-50.7
 発表者：井狩彌介
- 9月27日 Carrying forth of Agni (agnipraharana) and oblations 8.48.1-50.29
 発表者：井狩彌介
- 10月25日 Vasordhara 8.50.30-8.51.1
 発表者：井狩彌介
- 11月22日 Vajraprasaviya-homas etc. 8.51.2-27
 発表者：井狩彌介
- 12月20日 Vadhula Srautasutra と Agnicayana 祭式 (総括1) 発表者：井狩彌介

ブラフマニズムとヒンドゥイズム — 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性

班長 藤井正人

研究期間 2016年4月-2020年3月(4年度目)

研究実施状況

本研究は、3年の研究期間で行った共同研究(B班)「ブラフマニズムとヒンドゥイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」をC班として1年間延長したものである。過去3年の研究期間では、半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催してきた。延長期間である今年度は、クールに分けずに、これまでのテーマと重なりをもたせながら、十分に扱ってこなかった諸点(信仰、教理、聖典など)へも研究の視野を広げた。2月に共同研究「ブラフマニズムとヒンドゥイズム—南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」の最終シンポジウムとして、「古代・中世インドの社会と宗教 — 『聖典』の諸相 —」をテーマに第7回シンポジウムを京都大学で開催する。

研究班員

所内：藤井正人、井狩彌介、田中雅一、石井美保
 学内：赤松明彦(白眉センター)、横地優子(文学研究科)、天野恭子(白眉センター)、菊谷竜太(白眉センター)、八木綾子(文学

研究科・非常勤講師)、山口周子(文学研究科・非常勤講師)、高橋健二(文学研究科・博士後期課程)、趙世弘(文学研究科・博士後期課程)

学外：伊澤敦子(国際仏教学大学院大学・図書館職員)、井田克征(金沢大学・客員研究員)、永ノ尾信悟(東京大学・名誉教授)、大島智靖(東京大学・研究員)、置田清和(上智大学)、小倉智史(東京外国語大学)、尾園絢一(東北大学・専門研究員)、梶原三恵子(東京大学)、河崎豊(東京大学)、川村悠人(日本学術振興会海外特別研究員)、小林史明(東京大学・博士課程)、小林正人(東京大学)、佐々木雄太(東北大学・博士課程)、佐藤直美(宗教情報センター・研究員)、柴崎麻穂(中村元東方研究所・専任研究員)、高橋孝信(東京大学・名誉教授)、竹崎隆太郎(東京大学・博士課程)、田辺明生(東京大学)、手嶋英貴(京都文教大学)、堂山英次郎(大阪大学)、中村 史(小樽商科大学)、名和隆乾(大阪大学)、西村直子(東北大学・非常勤講師)、沼田一郎(東洋大学)、眞鍋智裕(日本学術振興会特別研究員)、山田智輝(大阪大学・招へい研究員)、吉水清孝(東洋文庫・研究員)

研究実施内容

2019年

- 5月17日 「『転輪王』観念の展開—ヴェーダ、仏典、叙事詩の比較」
 発表者：手嶋英貴(京都文教大学)
- 6月14日 「インド密教における聖典の受容と展開」
 発表者：菊谷竜太(白眉センター)
- 7月12日 「パーニニ文法学における聖典と言語」
 発表者：尾園絢一(東北大学・非常勤)
- 9月27日 「『海幸山幸』神話と『スダナとマノーハラー』物語」
 発表者：中村 史(小樽商科大学)
- 10月25日 「『バーガヴァタ註』におけるバクティ

と Kandatraya」 発表者：眞鍋智裕

(日本学術振興会特別研究員)

12月22日 「無遮会のおこりー仏典, ヴェーダ,
叙事詩の比較から見えてくること」

発表者：手嶋英貴 (京都文教大学)

大学), 舟橋健太 (龍谷大学), 吉村智博
(大阪人権博物館), John Russell (岐阜大
学), 渡辺紀子 (立命館大学), Arnaud
Nanta (フランス国立科学研究センター
(CNRS)), Mark Winchester (神田外国語
大学)

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

班長 竹沢泰子

研究期間 2016年4月-2020年3月 (4年度目)

研究実施状況

本年度は大きく分けて以下の7つの活動を中心に
実施した。1) 京都大学人文科学研究所とフランス
国立社会科学高等研究院の日仏学術交流事業として
国際シンポジウム「人種主義と反人種主義の越境と
転換」を2日間にわたって開催し、その成果を『人
文学報 特集号 人種主義と反人種主義の越境と転
換』(共編)で刊行した。2) 人種研究や方法論に関
する国際セミナーを計2回開催した。外国人招聘研
究者を含め、アメリカ、ハンガリー、マレーシアか
ら研究者を招いて開催した。3) 大学院生を含む若
手研究者が「人種, エスニシティ, 移民」について
議論するワークショップを1回開催した。4) ヒト
の「ちがひ」に関する文理融合の研究会を計2回開
催した。5) 被差別部落運動に関する研究会を部落
解放論研究会と合同で1回開催した。6) 日本軍
「慰安婦」制度をめぐる論争に関する映画『主戦場』
(2018年)を取り上げ、監督を招いて議論する上映
会を1回開催した。7) 『環太平洋地域における移動
と人種』(共編)に関する出版記念シンポジウムと
合評会をそれぞれ1回ずつ開催した。

研究班員

所内：石井美保, 瀬戸口明久, 徳永悠, 内野クリ
スタル, Lyle De Souza, 芹澤隆道

学内：川上浩司 (大学院医学研究科), 佐野亘
(大学院地球環境学堂), Caroline Hau (東
南アジア研究所)

学外：田辺明生 (東京大学), 太田博樹 (東京大
学), 鬼丸武士 (九州大学), 坂野徹 (日本
大学), 篠田謙一 (国立科学博物館), 関口
寛 (四国大学), 瀬口典子 (九州大学), 徳
永勝士 (東京大学), 成田龍一 (日本女子

研究実施内容

2019年

5月18日 第1回研究会 国際シンポジウム「人
種主義・反人種主義の越境と転換」
(日仏学術交流事業)

Ordre social et ordre racial en Améri-
que latine coloniale

発表者：Jean-Frédéric Schaub

(フランス社会科学高等研究院)

明治の教科書にみられる「人種」・「民
族」記述

発表者：竹沢泰子

Law and Race in the European History
of the 20th Century

発表者：Silvia Falconieri

(フランス国立科学研究センター)

国際結婚」言説の配置と変容から見る
近代日本の人種・人種化論

発表者：長志珠絵 (神戸大学)

日本統治下の台湾における植民地人類
学, 「理蕃」政策, 先住民族の人種化
過程

発表者：Arnaud Nanta

(フランス国立科学研究センター)

生政治的統治のグローバルな展開と被
差別部落

発表者：関口 寛

(四国大学)

5月19日 第2回研究会 人国際シンポジウム
「人種主義・反人種主義の越境と転換」
(日仏学術交流事業)

東ユーラシアの人類集団史とゲノム多
様性

発表者：太田博樹 (東京大学)

es tests ADN peuvent-ils démystifier
les idéologies racistes ?

発表者：Sarah Abel

(アイスランド大学)

Science des races et sciences poli-

- tiques en France (1815-1842)
発表者：Claude-Olivier Doron
(パリ第七大学)
- 反人種差別と霊的普遍主義—日印ナ
ショナリズムの交差と分岐
発表者：田辺明生 (東京大学)
- 5月21日 第3回研究会 文理融合研究会
国際シンポジウム「人種主義・反人種
主義の越境と転換」関連論集について
議論 発表者：Jean-Frédéric Schaub
(フランス社会科学高等研究院)
発表者：Arnaud Nanta
(フランス国立科学研究センター)
発表者：Sarah Abel
(アイスランド大学)
発表者：Claude-Olivier Doron
(パリ第七大学)
発表者：関口 寛 (四国大学)
発表者：田辺明生 (東京大学)
発表者：竹沢泰子
- 7月5日 第3回研究会 国際セミナー
Contradictions of Co-Being Between
“Native” and “Scholar”
発表者：芹澤隆道
Transpacific Scholars: Conceptualiz-
ing the Case of American Studies in
Japan 発表者：Lon Kurashige
(南カリフォルニア大学)
- 11月16日 第4回研究会 国際セミナー「Racial-
ization: Multiple Modalities of (In)
Visibility」
Invisible Racialization of Roma: Artic-
ulation, Oppression, and Structural
Violence 発表者：Angéla Kóczé
(中央ヨーロッパ大学)
“Race”, Racialization, and Multiracial-
ism in Contemporary Malaysia: To-
ward Post-Racial Futures?
発表者：Sharmani Patricia Gabriel
(マラヤ大学)
The International Decade for People of
- African Descent (2015-2024): A
Transnational Terrain for Antiracist
Affirmations that Black Lives Matter
発表者：Faye V. Harrison
(イリノイ大学アーバナ・
シャンペーン校)
- 12月15日 第5回研究会 「人種／エスニシティ
／移民 若手研究者ワークショップ」
発表者：内野クリスタル
発表者：キム ソニア
発表者：志賀恭子 (同志社大学)
発表者：芹澤隆道
発表者：孫・片田晶
発表者：竹田 響
発表者：徳永 悠
発表者：山中美潮 (同志社大学)
- 2020年
- 1月6日 第6回 文理融合班研究会 ヒトの
「ちがい」研究会
- 1月7日 第7回 文理融合班研究会 ヒトの
「ちがい」研究会
- 1月10日 第8回研究会 映画『主戦場』上映
会・デザキ監督を囲んで
発表者：Miki Dezaki
発表者：中村理香 (成城大学)
- 1月12日 第9回研究会 『環太平洋地域の移動
と人種』出版記念シンポジウム
発表者：平野克弥
(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
発表者：鬼丸武士 (九州大学)
発表者：関口 寛 (四国大学)
発表者：徳永 悠
発表者：内野クリスタル
発表者：土屋和代 (東京大学)
発表者：成田龍一 (日本女子大学)
発表者：田辺明生 (東京大学)
発表者：竹沢泰子
- 1月26日 第10回 歴史文化班、部落解放論
研究会との合同研究会
1960、70年代の学生運動と部落解放
運動との関係について

発表者：Till Knautd
 発表者：大賀正行
 (部落解放・人権研究所)
 1960, 70年代の学生運動と部落解放
 運動との関係について
 発表者：友永健三
 (部落解放・人権研究所)
 発表者：谷元昭信 大阪市立大学
 3月9日 第11回研究会 『環太平洋地域の移動
 と人種』合評会(コロナのため延期)
 発表者：飯島真里子(上智大学)
 発表者：貴堂嘉之(一橋大学)
 発表者：津田浩司(東京大学)

21世紀の人文学—Our Ageを問う

班長 岡田暁生, 小関隆, 佐藤淳二
 研究期間 2018年4月—2021年3月(2年度目)
 研究実施状況

2019年度は11回の研究会を開催した。本研究班の問題関心は「[システム内存在としての世界]についてのアートを媒介とする文理融合的研究」班のそれと重なるところが大きく、4回の研究会は同班との共同開催とされた。根本的な問いは「この世界はいつ始まっていたか」「この世界は何なのか」「この世界をどうすればよいのか」という、過去・現在・未来にかかわる問題であるが、本年度は、昨年度に引き続いて「いつから始まっていたか」という第一の問いへの取り組みを継続するとともに、新たに「この世界は何なのか」という第二の問いにかかわって、中動態、人新世、といった概念をめぐる議論にも着手した。参加者はのべ175名(うち女性20名、若手45名、大学院生18名、私立大学32名、国立他大学46名)であった。また、2回の研究会については、関西イギリス史研究会からも参加者を求め、積極的な反応を得た。さらに、2020年3月18日には特別例会として国際ワークショップ European Crisis in Historical Perspectives を開催した。

研究班員

所内：立木康介, 森本淳生, 王寺賢太, 藤原辰史,
 伊藤順二, 上尾真道

学内：吉岡洋(こころの未来研究センター), 小堀慎吾(文学研究科博士後期課程)
 学外：長谷川貴彦(北海道大学), 中野耕太郎(大阪大学), 田辺明生(東京大学), 三輪眞弘(情報科学芸術大学院大学), 上田和彦(関西学院大学), 坂本優一郎(関西学院大学), 橋本伸也(関西学院大学)

研究実施内容

2019年

- 4月7日 「話したい人」と「見せたい人」と「やってみたい人」と—人文工学としてのアートの可能性を考える
 発表者：岡田暁生
- 4月27日 Elements for a Theory of Post-68 Marxism
 発表者：Gavin Walker (McGill University)
- 5月17日 1960年代はサッチャリズムを呼び出したのか? 発表者：小関 隆
- 5月25日 60年代アメリカと「ニューディール」の退潮：去り行くリベラル政治の現代史
 発表者：中野耕太郎 (大阪大学文学部)
- 7月8日 精霊を待ちのぞむ?—中動態としての憑依
 発表者：石井美保
 「中動態」への補足資料
 発表者：佐藤淳二
- 7月20日 マルグリット・デュラス—「人間の終焉」以後の自伝的エクリチュール
 発表者：森本淳生
- 10月5日 人新世の人類学—滅びゆく世界のなかで生きるということ
 発表者：田辺明生(東京大学)
- 11月16日 「英国病」か「黄金時代」か?—過ぎ去ろうとしない1970年代
 発表者：長谷川貴彦(北海道大学)
- 12月13日 人新世におけるアートと哲学—「人間以後」の思考と実践
 発表者：篠原雅武(京都大学)

2020年

- 3月18日 An archaeology of populism: 'The people' in European political discourse

発表者：Serena Ferente
(King's College, London)

The End of 'Post-wars' Europe?: Introductory Remarks on Brexit

発表者：Takashi Koseki

帝国日本の「財界」形成についての研究：1895年-1945年

班長 籠谷直人

研究期間 2018年4月-2021年3月(2年度目)

研究実施状況

本年度は、研究代表者が病気により休職のため研究会を開催できなかった。2019年9月に台湾史研究所の鍾淑敏氏が来日の際、三好通弘氏の聞き取り調査の意見交換を行った。

研究班員

所内：都留俊太郎、岩井茂樹、村上衛

学外：陳来幸(兵庫県立大学)、上田貴子(近畿大学)、泉川普、鍾淑敏(中央研究院・台湾史研究所)

研究実施内容

2019年

9月1日 三好通弘氏インタビューについて意見交換会

東方学研究部

東西知識交流と自国化—汎アジア科学文化論

班長 武田時昌

研究期間 2017年4月-2020年3月(3年度目)

研究実施状況

東アジア世界の科学文化を構造的に把握するために、異国間における科学知識の接触現象にスポットを当て、受容過程と自国化していく史的展開の諸様相について汎アジアの視点から多角的な考察を試みた。本年度は、昨年度に引き続いて『宿曜経』の会読を行いながら、六然社の寄金丈嗣氏、青山学院大学准教授の山崎藍女史を特別講師に招いて研究発表会を開催した。9月10日に園城寺に宿曜道及び仏教天文学関係資料の調査を行った。そして、最終成果報告として訳注作成に向けた準備に取りかかった。

8月24-25日に北京において、北京大学東方文学研究センター、北京大学人文学部、プリティシュコロンビア大学仏教フォーラムとの共催で国際シンポジウムを開催し(総合テーマ「從中古到近代写本与跨文化交流(From Medieval to Pre Modern Times: Manuscripts and Cross Cultural Studies)」)、代表：陳明(北京大学教授)&武田時昌、日本側の参加者23名、紙面発表者1名)、これまでの研究成果を踏まえた研究発表を行うとともに、国際的な共同研究の連携を図った。また、12月14-15日に研究班の若手研究者が中心となって「緯書と經書学」国際シンポジウムを開催した。二つの国際シンポジウムの研究成果書は、2020年度に刊行する予定である。研究班員

所内：武田時昌、Bill Mak、高井たかね、宮紀子、平岡隆二

学内：上田真啓(文学研究科・非常勤講師)、伊藤裕水(文学部・非常勤講師)、伊藤令子(文学研究科・OD)、瞿艶丹(文学研究科・博士後期課程)、成高雅(人間・環境学研究科・博士後期課程)、趙ウニル(文学研究科・O.D.)、劉青(人間・環境学研究科・博士後期課程)

学外：高橋あやの(関西大学)、宮島一彦(中之島科学研究所・研究員、同志社大学・元教授)、清水浩子(大正大学)、矢野道雄(京都産業大学・名誉教授)、梅林誠爾(熊本県立大学・名誉教授)、白雲飛(大阪府立大学・客員研究員)、岡田正彦(天理大学・教授)、吉田薫(東亜天文学会)、佐々木聡(大阪府立大学・特別研究員)、福島雅淳(神戸学院大学・博士後期課程)、名和敏光(山梨県立大学)、古藤友子(国際基督教大学)、宮崎順子(関西大学・非常勤講師)、奈良場勝(暁星高校・講師)、相川佳予子(奈良女子大学・元教授)、安部郁子(財研医会・研究員、図書館長)、新井晋司(同志社女子大学・非常勤講師)、家本旬二(鍼灸師)、猪飼祥夫(北里大学)、池内早紀子(大阪府立大学・修士課程)、石井行雄(北海道教育大学釧路校・准教

- 授), 岩間眞知子 (日中茶文化研究家), 浦山あゆみ (大谷大学), 大形徹 (大阪府立大学・教授), 王財源 (関西医療大学), 桐浴眞智子 (大阪医科大学附属病院・鍼灸師), 熊野弘子 (関西大学・非常勤講師), 古藤友子 (国際基督教大学), 小林博行 (中部大学准教授), 坂井里奈 (神戸学院大学・非常勤講師), 島山奈緒子 (関西医療大学・非常勤講師), 高田宗平 (大阪府立大学・客員研究員), 多田伊織 (大阪府立大学・客員研究員), 塚本明日香 (岐阜大学), 張莉 (大阪教育大学), 豊田裕章 (大阪府立豊中支援学校・教諭), 長野仁 (森ノ宮医療大学大学院・教授), 中吉隆之 (関西医療大学), 奈良上眞 (大阪医療技術学園専門学校・教員), 橋本敬造 (関西大学・名誉教授), 濱口昭宏 (医学統合研究会・代表), 早川尚志 (大阪大学), 林みどり (関西医療大学・非常勤講師), 平地治美 (千葉大学・非常勤講師), 松岡尚則 (公益財団法人研医会・研究員), 三鬼丈知 (大谷大学), 光平有希 (国際日本文化研究センター・研究員), 横大路綾子 (大阪府立大学), 吉村美香 (愛知淑徳大学), 梁永宣 (兵庫医科大学), 渡邊真弓 (関西医療大学・研究員), Beatriz Puente-Ballesteros (マカオ大学・助教)
- 研究実施内容
- 2019年
- 4月6日 兵書選読 発表者: 武田時昌
(人文科学研究所・教授)
- 古の身体の使い方 発表者: 寄金文嗣
(六然社主宰)
- 4月7日 宿曜経研究会
『宿曜経』巻上 19b04-20a06
発表者: 白雲飛
- 5月31日 宿曜経研究会
『宿曜経』巻上 20a07-21a02
発表者: 小林博行
- 『円珠疑問』について
発表者: 石井行雄
- 6月1日 五味について 発表者: 清水浩子
(大正大学総合佛教研究所・
客員研究員)
- 唐詩に垣間見える術数文化 —— 白居易・李賀の詩歌分析を中心に ——
発表者: 山崎 藍
(青山学院大学・准教授)
- 7月5日 宿曜経研究会
『宿曜経』巻上 21a03-22a07
発表者: 白雲飛
- 8月24日 從中古到近代: 寫本與跨文化 國際學術研討會 International Symposium on “From Medieval to Pre Modern Times: Manuscripts and Cross Cultural Studies”
日本中世の抄物資料: 書寫文化與漢籍受容 発表者: 武田時昌
(京都大学人文科学研究所・教授)
- Creating Order out of Chaos in Imperial Collections
発表者: Michael Friedrich 傅敏怡
(Asien Afrika Institut,
Universität Hamburg, Germany)
- Manuscript Cultures in Thailand: Form, Believe and Beauty
発表者: Utain Wongsathit
(Faculty of Archaeology,
Silpakorn University, Thailand)
- 司会: 真柳誠 茨城大学・名誉教授
コメンテーター: Jonathan Pettit
裴玄錚
(Assistant Prof.,
Department of Religion,
University of Hawai‘i-Manoa)
- 針灸吉田流《蟲書》の成書過程
発表者: 池内早紀子
(大阪府立大学大学院・博士課程)
- 発表者: 大形徹
(大阪府立大学大学院・教授)
- 早稻田大學圖書館藏《底野迦真方》寫本初探 発表者: 陳明

(北京大学東方文学研究中心・教授)
室町時代養生書の寫本小考

發表者：劉青

(京都大学人間・環境学研究科・
博士課程)

日本《醫心方》(半井家本)卷子本和背
書資訊傳達和媒體形式

發表者：永瀬 (多田) 伊織

(大阪府立大学・研究員)

司會：Michael Friedrich 傅敏怡
(Universität Hamburg Hamburg)

コメンテーター：真柳 誠

(茨城大学・教授)

日藏漢籍《靈台秘苑》的比較研究

發表者：高橋あやの

(大東文化大学・非常勤講師)

『尚書大傳』輯佚管窺

發表者：伊藤裕水

(京都大学・非常勤講師)

瀧川資言手錄《史記正義佚存》之發現
與其歷史背景

發表者：小澤賢二

(南京師範大学文学院・客座教授)

山谷詩在日本禪林接受的情況 — 以山
谷詩漢文抄中的文學術語“味外味爲
例”

發表者：大島繪莉香

(名古屋大学人文学研究科・博士課程)

淺探江戶後期成書的有關中國宴席文化
未刊著作

發表者：高井たかね

(人文科学研究所・助教)

司會：河野貴美子

(早稲田大学・教授)

コメンテーター：伏俊璉

(西華師範大學寫本研究中心・教授)

Surveying Manuscripts and Instru-
ments of Kaga no Kuni in Mid and
Late Tokugawa Japan

發表者：Fun g Kam Wing 馮錦榮

(University of Hong Kong, China)

《山相秘錄》中探礦法所見的風水術與
望氣術之影響

發表者：水口拓壽

(武蔵大学人文学部・教授)

阿拉伯-伊斯蘭文化圈的農學著作綜述

發表者：久保輝幸

(浙江工商大学東方語言文化學院・
副教授)

《天地瑞祥志》編纂研究 — 和其他類書
關係為主

發表者：佐野誠子

(名古屋大学大学院人文学研究科・
准教授)

司會：武田時昌

(人文科学研究所・教授)

コメンテーター：大形徹

(大阪府立大学大学院・教授)

8月25日 一部家國簡史：敦煌 S.2607+S.9931
寫本研究

發表者：伏俊璉

(西華師範大学寫本研究中心・教授)

現存時代最早的吐蕃針灸禁忌文獻

——敦煌藏文本 P.3288V《逐日人神

所在法》整理與研究

發表者：陳于柱

(天水師範學院歷史文化學院・教授)

關於在日敦煌文獻收藏的研究 — 以
濱田德海收藏文獻的收藏過程為中心

發表者：岩本篤志

(立正大学文学部・准教授)

關於敦煌文獻《《正月占城氣法》中
“雲氣占”的考察的考察

發表者：柁島雅弘

(京都産業大学・非常勤講師)

敦煌醫學卷子Ⅱ x00613+P.3287 再考

證

發表者：于業禮

(上海中醫藥大学・講師)

發表者：沈澍農

(南京中醫藥大学・教授)

司會：真柳誠 (茨城大学・名誉教授)

コメンテーター：名和敏光

(山梨県立大学・准教授)

日本現存佛典古寫本的特點及其意義初

探 — 以石山寺本《妙法蓮華經玄贊》

寫本為例

發表者：河野貴美子

(早稲田大学・教授)

齋意類文獻 — 中國宗教儀式文獻中被
忽略的核心內容

發表者：侯冲

(上海師範大学哲学系・教授)
 The Amanosan Kongōji edition of the
 Biography of Enchin by Miyoshi no
 Kiyoyuki: A Sacred Teachings
 (Shōgyō) Manuscript
 発表者: George Keyworth 紀強
 (University of Saskatchewan, Canada)
 《根本説一切有部律衣事》の梵語寫本
 和藏語譯本研究劄記 発表者: 吳娟
 (清華大学人文学院・副教授)
 司会: 水口拓壽
 (武蔵大学人文学部・教授)
 コメンテーター: George Keyworth
 紀強
 (University of Saskatchewan,
 Canada)
 《宿曜經》抄本研究初探
 発表者: 清水浩子
 (大正大学綜合佛教研究所・
 客員研究員)
 Rethinking the Notion of Forgeries
 and Corruptions in Early Daoist Manu-
 scripts
 発表者: Jonathan Pettit 裴玄錡
 (Assistant Prof.,
 Department of Religion,
 University of Hawai'i-Manoa)
 陰陽陰陽道の展開と術数分野の古写本
 発表者: 山下克明
 (大東文化大学東洋研究所・研究員)
 蠶神馬鳴菩薩信仰の由來
 発表者: 白雲飛
 (大阪府立大学・客員研究員)
 司会: Fung Kam Wing 馮錦榮
 (University of Hong Kong, China)
 コメンテーター: 侯冲
 (上海師範大学哲学系・教授)
 古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚
 文(資料編) 発表者: 名和敏光
 (山梨県立大学・准教授)
 寫夢與刻夢 — 中國古代解夢書產生條

件對其傳流與用途之影響
 発表者: Dimitri Drettas 賀旦思
 (Research Fellow,
 University of Erlangen-Nuremberg,
 Germany)
 發病占 — 研究與保護術數文獻的意義
 発表者: 佐佐木聰
 (金沢学院大学・講師)
 關於《家秘要録》和《天變地妖記》
 発表者: 水口幹記
 (藤女子大学文学系・准教授)
 司会: 陳于柱
 (天水師範学院歴史文化学院・教授)
 コメンテーター: 武田時昌
 (人文科学研究所・教授)
 9月10日 園城寺(三井寺)宿曜經及び仏教天文
 学関係資料等調査
 10月25日 宿曜經研究会
 『宿曜經』卷上 21a03-22a07 続き
 発表者: 白雲飛
 11月25日 宿曜經研究会
 『宿曜經』卷上 22a08-23b03
 発表者: 清水浩子
 12月14日 「緯書と經書学」國際シンポジウム
 緯書研究の進展 発表者: 武田時昌
 (人文科学研究所・教授)
 《文心雕龍正緯》篇讀札
 発表者: 王遜(揚州大学)
 司会: 伊藤裕水
 (京都大学文学部・非常勤講師)
 深衣の復原 — 軟侯夫人と『礼記』
 疏 発表者: 宮崎愛梨
 (Kaikorium~懐古空間~・代表)
 回到孔子和《春秋》: 西漢末年讖緯思
 潮的興起 発表者: 徐興無
 (南京大学・教授)
 東漢經學家星曆研究: 以賈逵, 張衡和
 蔡邕為中心 発表者: 馮錦榮
 (香港大学・教授)
 緯書における礼經の完備化について
 司会: 高橋あやの

	(大東文化大学・非常勤講師)	会と4回の編集会議を行うことができた。歴史学、
	緯書における礼經の完備化について	宗教学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～
	発表者：末永高康（広島大学・教授）	現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究動向を踏まえ、
	擲錢法の四象判別 発表者：鄭宰相	ながらも現在までの研究で何がどこまで明らかにされてきたかを平易に解説する原稿を分担で執筆し、研究会では分野横断的に多角的な検討を加え、異なる分野からの視点による学際的な情報提供と意見交換を活発に行なった。〔概論の編集〕本研究班の成果をまとめた概論『チベットの歴史と社会』（仮題）の編集会議を行ない、研究期間内の刊行に向けて編集作業を進めた。
	(韓国圓光デジタル大学校・准教授)	
	司会：名和敏光	
	(山梨県立大学・准教授)	
12月15日	《尚書考靈耀》の四遊と《尚書》經文	
	発表者：伊藤裕水	
	(京都大学文学部・非常勤講師)	
	梁武帝の大業 発表者：孫 英剛	
	(浙江大學・准教授)	
	司会：清水浩子	
	(大正大学総合佛教研究所・	
	客員研究員)	
	緯書の文體特徴 発表者：朱岩	
	(揚州大学・教授)	
	『周易命期略秘伝』初探—『易緯』研究における資料的価値	
	発表者：藤田 衛（広島大学・助教）	
	六朝初期的《郷飲酒禮》：基於皇權與士族關係の考察	
	発表者：童嶺（南京大学）	
	司会：大形 徹	
	(大阪府立大学・教授)	
12月23日	宿曜經研究会	
	『宿曜經』卷上 23b04-25a04	
	発表者：小林博行	
2020年		
1月27日	宿曜經研究会	
	『宿曜經』卷上 25a05-26a02	
	発表者：清水浩子	
2月24日	宿曜經研究会	
	『宿曜經』卷上 26a02～28b06	
	発表者：小林博行	
チベット文明の継承と史的展開の諸相		
	班長 池田 巧	
研究期間	2018年4月—2021年3月（2年度目）	
研究実施状況		
	[研究会と研究報告] 本年度は合計で4回の研究会と4回の編集会議を行うことができた。歴史学、宗教学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究動向を踏まえ、ながらも現在までの研究で何がどこまで明らかにされてきたかを平易に解説する原稿を分担で執筆し、研究会では分野横断的に多角的な検討を加え、異なる分野からの視点による学際的な情報提供と意見交換を活発に行なった。〔概論の編集〕本研究班の成果をまとめた概論『チベットの歴史と社会』（仮題）の編集会議を行ない、研究期間内の刊行に向けて編集作業を進めた。	
	研究班員	
	所内：池田巧、稲葉稜、中西竜也	
	学内：熊谷誠慈（こころの未来研究センター）、マルク=アンリ・デロッシュ（総合生存学館）、安田章紀（こころの未来研究センター）、長岡慶（アジア・アフリカ地域研究科）	
	学外：武内紹人（神戸市外国語大学）、西田愛（神戸市外国語大学）、大川謙作（日本大学）、別所裕介（駒澤大学）、星泉（東京外国語大学）、根本裕史（広島大学）、池尻陽子（関西大学）、海老原志穂（東京外国語大学）、山本明志（大阪国際大学）、小西賢吾（金沢星稜大学）、山本達也（静岡大学）、小野田俊蔵（佛教大学）、三宅伸一郎（大谷大学）、小松原ゆり（明治大学）、村上大輔（駿河台大学）、井内真帆（神戸市外国語大学）、加納和雄（駒澤大学）、大羽恵美（金沢大学）、大西啓司（龍谷大学）、黒田有誌（龍谷大学）、岩尾一史（龍谷大学）	
	研究実施内容	
	2019年	
	4月20日 チベットの地図と地理情報について	
	発表者：池田 巧	
	5月18日 編集会議	
	6月15日 概論：ボン教の章／方言の章の検討	
	9月21日 概論：改訂された章の検討と編集会議	
	11月26日 概論：改訂された章の検討と編集会議	
	12月14日 概論：改訂された章の検討と編集会議	

2020 年

- 1 月18日 概論：改訂された章の検討と編集会議
 2 月15日 概論：改訂された章の検討と編集会議
 3 月14日 概論：改訂された章の検討と編集会議

『文史通義』研究

班長 古勝隆一

研究期間 2015 年 4 月－2020 年 3 月（5 年度目）
 研究実施状況

本年度は 4 月 16 日に最初の研究班を開催して以来、おおむね 2ヶ月に 3 回のペースで『文史通義』の会読を実施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決していない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ担当者を決めて、会の数日前に訳注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では効率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、本年度は巻四について訳出を進めた。

研究班員

所内：岩井茂樹、永田知之、藤井律之、白須裕之
 学内：宇佐美文理（大学院文学研究科）、道坂昭廣（大学院人間・環境学研究科）、陳佑真（大学院文学研究科）、福谷彬（人文科学研究科）、王孫涵之（文学研究科）、臧魯寧（文学研究科）

学外：内山直樹（千葉大学）、竹元規人（福岡教育大学）、渡邊大（文教大学）、重田みち（京都造形芸術大学）、山口智弘（国立公文書館）、白石将人（中山大学）、趙ウニル（京都国立博物館）

研究実施内容

2019 年

- 4 月16日 『文史通義』巻四「弁似」訳注
 『文史通義』巻四「弁似」訳注
 発表者：古勝隆一
 5 月 7 日 『文史通義』巻四「弁似」訳注
 『文史通義』巻四「弁似」訳注
 発表者：古勝隆一

- 5 月21日 『文史通義』巻四「説林」訳注
 『文史通義』巻四「説林」訳注
 発表者：竹元規人
 （福岡教育大学・非常勤）
 6 月18日 『文史通義』巻四「説林」訳注
 『文史通義』巻四「説林」訳注
 発表者：福谷 彬
 7 月 2 日 『文史通義』巻四「説林」訳注
 『文史通義』巻四「説林」訳注
 発表者：陳佑真（文学研究科）
 7 月16日 『文史通義』巻四「知難」訳注
 『文史通義』巻四「知難」訳注
 発表者：白須裕之
 10月15日 『文史通義』巻四「天諭」訳注
 『文史通義』巻三「天諭」訳注
 発表者：臧魯寧
 （文学研究科博士課程）
 10月15日 『文史通義』巻四「知難」訳注
 『文史通義』巻四「知難」訳注
 発表者：白須裕之
 11月 5 日 『文史通義』巻四「釋通」訳注（前半）
 『文史通義』巻四「釋通」訳注（前半）
 発表者：渡辺 大（文教大学）
 12月 3 日 『文史通義』巻四「横通」訳注
 『文史通義』巻四「横通」訳注
 発表者：古勝みち
 （京都造形芸術大学）
 12月17日 『文史通義』巻四「繁称」訳注
 『文史通義』巻四「繁称」訳注
 発表者：山口智弘（国立公文書館）

北朝石窟寺院の研究

班長 岡村秀典

研究期間 2015 年 4 月－2020 年 3 月（5 年度目）

研究実施状況

水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』（全 16 巻 32 冊、1951～1956 年）図版解説の会読を隔週で実施し、本年度は第 19A・第 19B 洞・第 20 洞を検討した。その成果論文としては 2019 年の『東方学報』京都第 94 冊に向井佑介「北魏興安二年舍利石函の図像学」、稲本泰生「ボードガヤー出土の 10～11 世紀漢

文石刻資料と訪天僧の奉獻品」が公刊された。また、水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』（座右宝刊行会、1941年）の中国語版を中国鄭州の大象出版社から出版する準備を進め、本学との間で出版契約を締結したほか、岡村秀典『雲岡石窟の考古学』（臨川書店、2017年）の中国語版について四川人民出版社との間で出版契約を締結し、2020年の刊行をめざしている。東京大学東洋文化研究所と協力して100年前の中国石窟写真を集大成した『中国文化遺産』石窟巻（中国語版全5巻）の執筆・翻訳と編集を進め、2020年に清華大学出版社から刊行する予定である。

研究班員

所内：安岡孝一、稲本泰生、向井佑介、檜山智美、倉本尚徳
 学内：内記理（文化財総合研究センター）、折山桂子（文学研究科）、常钰熙（人文科学研究科）
 学外：高橋早紀子（愛知学院大学）、外山潔（泉屋博古館）、齋藤龍一（大阪市立美術館）、山名伸生（京都精華大学）、大西磨希子（佛敎大学）、石松日奈子（清泉女子大学）、濱田瑞美（横浜美術大学）、佐藤智水（龍谷大学）、田林啓（白鶴美術館）、上枝いづみ（金沢大学）、高志緑（大阪大学）、王珏人（大阪大学）

研究実施内容

2019年

- 4月16日 雲岡石窟第十九A洞
 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 4月30日 ブッダガヤ出土の漢文石刻史料と宋代仏敎美術—コルカタ・インド博物館所蔵品調査をふまえて
 発表者：稲本泰生
 中国南北朝時代の仏塔と舍利埋納
 発表者：向井佑介
- 5月7日 雲岡石窟第十九A洞
 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 5月21日 雲岡石窟第十九A洞
 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 6月4日 雲岡石窟第十九A洞

- 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 7月2日 雲岡石窟第十九A洞・第十九B洞
 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 7月16日 雲岡石窟第十九B洞
 発表者：黄盼（京都府立大学）
- 10月1日 雲岡石窟第十九B洞
 発表者：岡村秀典
- 11月5日 雲岡石窟第十九B洞
 発表者：岡村秀典
- 11月19日 雲岡石窟第二十洞 発表者：岡村秀典
- 12月3日 雲岡石窟第二十洞 発表者：折山桂子
 （京大・文DC）

中国在家の敎理と經典

班長 船山 徹

研究期間 2016年4月—2020年3月（4年度目）

研究実施状況

中国の南朝仏敎における在家の活動を具体的に知るため、今年は『弘明集』巻23僧行篇の会読を集中的に行った。具体的には、謝靈運「曇隆法師誄」、謝靈運「慧遠法師誄」、張暢「若邪山敬法師誄」、闕撰人「南齊安樂寺律師智稱法師行状」、虞羲「廬山香鑪峯寺景法師行状」、沈約「齊禪林寺尼淨秀行状」である。それぞれの分量に応じて1~5回に分け、適宜、原文校訂・現代語日本語訳・語注を作成した。

研究班員

所内：船山徹、稲本泰生、稲葉穰、ウィッテルン・クリスティアン、古勝隆一、中西竜也
 学内：趙ウニル（大学院文学研究科）、中村慎之介（大学院文学研究科）
 学外：石垣明貴紀（龍谷大学）、桐原孝見（龍谷大学）、中西久味（新潟大学）、松岡寛子（仏敎伝道敎会）、村田みお（近畿大学）、山田周（京都府立大学）

研究実施内容

2019年

- 4月19日 謝靈運「曇隆法師誄」解説訳注作成（一） 発表者：古勝隆一
- 5月17日 謝靈運「曇隆法師誄」解説訳注作成（二） 発表者：古勝隆一

- 5月30日 謝靈運「慧遠法師誄」解説訳注作成
発表者：船山 徹
- 6月21日 張暢「若邪山敬法師誄」解説訳注作成
発表者：中村慎之介（文学研究科）
- 7月5日 闕撰人「南齊安樂寺律師智稱法師行状」解説訳注作成（一）
発表者：中西竜也
- 9月20日 闕撰人「南齊安樂寺律師智稱法師行状」解説訳注作成（二）
発表者：中西久味（新潟大学）
- 10月4日 虞羲「廬山香鑪峯寺景法師行状」解説訳注作成（一） 発表者：船山 徹
- 10月18日 虞羲「廬山香鑪峯寺景法師行状」解説訳注作成（二） 発表者：船山 徹
- 11月15日 沈約「南齊禪林寺尼淨秀行状」解説訳注作成（一） 発表者：ウィッテルン・クリスティアン
- 12月6日 沈約「南齊禪林寺尼淨秀行状」解説訳注作成（二） 発表者：倉本尚徳
- 2020年
- 1月31日 沈約「南齊禪林寺尼淨秀行状」解説訳注作成（三） 発表者：稲本泰生
- 2月21日 沈約「南齊禪林寺尼淨秀行状」解説訳注作成（四） 発表者：趙 ウニル（京大文学研究科）
- 3月6日 沈約「南齊禪林寺尼淨秀行状」解説訳注作成（五）および総括
発表者：船山 徹
- 5月30日 謝靈運「慧遠法師誄」解説訳注作成
発表者：船山 徹
している。なお、関連する成果として『字書十選』と題する図録（東方学資料叢刊第27冊）を東アジア人文学情報学研究中心より刊行し、リポジトリ「紅」においても公開した。
- 研究班員
所内：ウィッテルン・クリスティアン、古勝隆一、高井たかね、永田知之、藤井律之、宮宅潔、古松崇志、福谷彬
学内：道坂昭廣（人間環境学研究科）、小野木聡、瞿艶丹
学外：木村可奈子（日本学術振興会 PD 研究員（名古屋大学））、岩本真利絵（大谷大学・助教）
- 研究実施内容
2019年
- 4月10日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：藤井律之
発表者：古松崇志
- 4月17日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：古松崇志
- 4月24日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：宮宅 潔
- 5月8日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：宮宅 潔
発表者：矢木 毅
- 5月15日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：矢木 毅
- 5月22日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：矢木 毅
発表者：福谷 彬
- 5月29日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
発表者：福谷 彬
- 6月5日 東方文化学院京都研究所漢籍目録集部別集類北宋之属
- 東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究
班長 矢木 毅
- 研究期間 2016年4月－2021年3月（4年度目）
- 研究実施状況
毎週水曜日、14時より16時まで、分館書庫にて開催（12月以降は避寒のため、本館セミナー室1にて開催）。前期は4月10日より7月24日まで（計15回）。後期は10月9日より1月29日まで（計15回）。通年で30回開催。本年度は集部別集類および中江文庫経部の内容を検討した。毎回の検討の成果を「典拠情報」としてまとめ、「全国漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開

彙 報

6月12日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類北宋之属	発表者：福谷 彬	11月20日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：古松崇志
		発表者：福谷 彬	11月27日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：古松崇志
		発表者：ウィッテルン・ クリスティアン	12月4日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：永田知之
6月19日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類北宋之属	発表者：ウィッテルン・ クリスティアン	12月11日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：高井たかね
6月26日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類北宋之属	発表者：矢木 毅	12月18日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：矢木 毅
7月3日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：高井たかね	12月25日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：宮宅 潔
			2020年		
7月10日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：永田知之	1月8日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：古松崇志
		発表者：高井たかね	1月15日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：藤井律之
		発表者：永田知之	1月22日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：福谷 彬
7月17日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：永田知之	1月29日	中江文庫漢籍目録 経部	発表者：永田知之
7月24日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：永田知之			
		発表者：福谷 彬			
10月9日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：福谷 彬			
10月16日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：福谷 彬			
10月23日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：福谷 彬			
11月6日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：藤井律之			
11月13日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類南宋之属	発表者：藤井律之			

漢籍リポジトリの基礎的研究

班長 ウィッテルン クリスティアン

研究期間 2016年4月-2021年3月(4年度目)

研究実施状況

今年度も国際的なデジタル・ヒューマニティーズの動きを確認しながら漢籍リポジトリの内容を充実させて、利用と利便性を高めるを図った。今年度は特にリポジトリ全体的な分析のためにいくつかの実験を行いました。今回は主に sentence piece を使ったモデルを作成して、そうして部類間或いはテキスト間のネットワークを分析しました。

研究班員

所内：安岡孝一，古勝隆一，永田知之，白須裕之
学内：宮崎泉（文学研究科）

研究実施内容

2019年

4月23日 前年度のまとめ、漢籍リポジトリの現

	状とこれからの予定	5月10日	岳麓簡会読 184-193	
5月14日	Sentence piece		発表者：齋藤 賢（文学研究科）	
5月28日	More sentence piece	5月24日	岳麓簡会読 184-193	
6月11日	Sentence piece network analysis		発表者：齋藤 賢（文学研究科）	
6月25日	Sentencepiece vs ngram	5月31日	岳麓簡会読 184-193	
7月9日	Analysis of the text corpus with sentencepiece		発表者：齋藤 賢（文学研究科）	
10月8日	漢籍リポジトリの更新に向けて	6月14日	岳麓簡会読 194-197	
11月12日	漢籍リポジトリ XML 形式検討	6月21日	岳麓簡会読 194-197	
11月26日	CTS & Perseus, Text Alignment		発表者：鷹取祐司（立命館大学）	
2020年		6月28日	岳麓簡会読 198-206	
1月14日	TAN		発表者：角谷常子（奈良大学）	
1月28日	Text/Commentary in XML	7月5日	岳麓簡会読 198-206	
			発表者：角谷常子（奈良大学）	
秦代出土文字史料の研究		7月19日	岳麓簡会読 198-206	
	班長 宮宅 潔		発表者：角谷常子（奈良大学）	
研究期間	2016年4月-2021年3月（4年度目）	8月2日	岳麓簡会読 198-206	
研究実施状況			発表者：角谷常子（奈良大学）	
	里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し、その内容や研究状況について意見を交換したうえで、項目7に示したように会読を進めた。会読により作成された訳注（岳麓書院所蔵簡《秦律令（壹）》訳注稿 その3（暫定版））は、研究班のHP（ http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html ）に公開した。	9月6日	里耶秦簡会読 8-960~8-996	
研究班員			発表者：藤井律之	
所内	藤井律之、古勝隆一、宮宅潔、目黒杏子、陳捷、李磊、魏永康、陳鳴、曹天江	9月20日	岳麓簡会読 225-236	
学内	宗周太郎（文学研究科・博士課程）、齋藤賢（文学研究科・博士課程）、章瀟逸（人間・環境学研究科・博士課程）		発表者：宮宅 潔	
学外	郭聡敏（立命館大学）、佐藤達郎（関西学院大学）、角谷常子（奈良大学）、鷹取祐司（立命館大学）、土口史記（岡山大学）、安永知晃（関西学院大学）、畑野吉則（奈良文化財研究所）	9月27日	里耶秦簡会読 8-960~8-996	
			発表者：藤井律之	
研究実施内容		10月11日	岳麓簡会読 225-236	
2019年			発表者：宮宅 潔	
4月12日	岳麓簡会読 184-193	10月25日	里耶秦簡会読 8-960~8-996	
	発表者：佐藤達郎（関西学院大学）		発表者：藤井律之	
4月26日	岳麓簡会読 184-193	11月15日	岳麓簡会読 225-236	
	発表者：佐藤達郎（関西学院大学）		発表者：宮宅 潔	
		11月22日	里耶秦簡会読 8-898~8-924	
			発表者：角谷常子（奈良大学）	
		11月29日	岳麓簡会読 225-236	
			発表者：宮宅 潔	
		12月6日	里耶秦簡会読 8-898~8-924	
			発表者：角谷常子（奈良大学）	
		12月13日	岳麓簡会読 237-247	
			発表者：藤井律之	
		12月20日	里耶秦簡会読 8-898~8-924	
			発表者：角谷常子（奈良大学）	
		2020年		

- 1月10日 岳麓簡会読 237-247
 発表者：藤井律之
- 1月24日 里耶秦簡会読 8-925～8-959
 発表者：宮宅 潔
- 1月31日 岳麓簡会読 237-247
 発表者：藤井律之
- 2月7日 里耶秦簡会読 8-925～8-959
 発表者：宮宅 潔
- 2月14日 岳麓簡会読 237-247
 発表者：藤井律之
- 2月28日 里耶秦簡会読 8-925～8-959
 発表者：宮宅 潔
- 3月6日 岳麓簡会読 237-247
 発表者：藤井律之

転換期中国における社会経済制度

班長 村上 衛

研究期間 2016年4月～2020年3月(4年度目)

研究実施状況

本年度は研究班の最終年度にあたり、合計16回の研究会を実施した(新型コロナウイルスの感染拡大にともない3月に予定していた17回目はキャンセルとなった)。毎回の参加者数は平均で25名ほどで、本学文学研究科、人間・環境学研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と発言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していただいている。コメンテーターは関西に限定せず、首都圏や静岡・長崎などの各地から報告テーマに即した研究者を招聘した。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることもあった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員の金順姫氏の講演会「習近平『一強体制』の足元 いま中国で何が起きているのか」を2月22日に予定している。なお、研究成果は来年度中に報告論文集として刊行の予定である。

研究班員

所内：村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、古松崇志、漆麟(日本学術振興会外国人特

別研究員)、王剛(招へい外国人学者)、趙擘(研究生)、陳瑤(招へい外国人学者)

学内：貴志俊彦(地域研究統合情報センター)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、高嶋航(文学研究科)、江田憲治(人間・環境学研究科)、秋田朝美(経済学研究科)、郭まいか(文学研究科)、谷雪妮(文学研究科)、都留俊太郎(文学研究科)、李ハンキョル(文学研究科)、駒込武(教育学研究科)、奈良岡聰智(法学研究科)、彭鵬(人間・環境学研究科)、王天馳(文学研究科)、上島享(文学研究科)、北村由美(附属図書館)、太田出(人間・環境学研究科)、瞿艶丹(文学研究科)、潘藝心(人間・環境学研究科)、鈴木秀光(法学研究科)、吳舒平(法学研究科)、Steven Ivings(経済学研究科)、巫靚(人間・環境学研究科)、王怡然(人間・環境学研究科)、塩出浩之(文学研究科)、張子康(文学研究科)、小堀慎悟(文学研究科)、楊峻懿(人間・環境学研究科)、久保田裕次(大学文書館)、小林篤史(東南アジア地域研究研究所)

学外：山崎岳(奈良大学)、石川亮太(立命館大学)、上田貴子(近畿大学)、易星星(兵庫県立大学)、大坪慶之(三重大学)、岡本隆司(京都府立大学)、荻恵里子(京都府立大学)、小野寺史郎(埼玉大学)、片山剛(大阪大学)、加藤雄三(専修大学)、金丸裕一(立命館大学)、蒲豊彦(京都橘大学)、菊池一隆(愛知学院大学)、木越義則(名古屋大学)、楠原俊代(同志社大学)、小林亮介(九州大学)、兒玉州平(山口大学)、柴田陽一(愛知県立大学)、坂井田夕起子(愛知大学)、城地孝(同志社大学)、城山智子(東京大学)、園田節子(兵庫県立大学)、瀧田豪(京都産業大学)、田口宏二郎(大阪大学)、田中剛(帝京大学)、団陽子(神戸大学)、陳来幸(兵庫県立大学)、富澤芳亜(島根大学)、豊岡康史(信州大学)、西山喬貴(University College London)、根無新太郎(京都府立大学)、狭間直樹

- (京都大学), 浜田直也(神戸女子大学), 細見和弘(立命館大学), 堀地明(北九州市立大学), 松村光庸, 丸田孝志(広島大学), 三田剛史(明治大学), 宮内肇(立命館大学), 村尾進(天理大学), 望月直人(大阪経済法科大学), 森時彦(京都大学), 森川裕貫(関西学院大学), 吉田建一郎(大阪経済大学), 吉田豊子(復旦大学), 劉雯(兵庫県立大学), 凌鵬(北京大学), 鷺尾浩幸(北海道大学), 彭浩(大阪市立大学), 篠原由華(同志社大学), 木村可奈子(名古屋大学), 岩本真利絵(大谷大学), 奥村哲(首都大学東京), 梶谷懐(神戸大学), 箱田恵子(京都女子大学), 濱島敦俊(大阪大学), 平井健介(甲南大学), 山本一(立命館大学), 彭劍(華中師範大学), 安東強(中山大學), 森万佑子(京都府立大), 村田雄二郎(同志社大学), 土居智典(長崎外国語大学), 金順姫(朝日新聞), 小野達哉(同志社大学), 土井歩(同志社大学), 孟二壮(大阪大学)
- 6月28日 近代中国における肺結核療養院の実態：牯嶺普仁医院を中心として
コメンテーター：鈴木秀光(京都大学)
発表者：瞿 艶丹(京都大学)
コメンテーター：福士由紀(首都大学東京)
- 7月12日 同治末年の政策決定における皇帝・軍機大臣の關係と皇太后
発表者：大坪慶之(三重大学)
コメンテーター：岩井茂樹(京都大学)
- 7月26日 清末教育改革における「中体西用」思想について—「貴陽師範学堂日本教習殴辱学生事件」を中心に
発表者：関 芸蕾(京都大学)
コメンテーター：藤谷浩悦(駒澤大学・非常勤)
- 政治化する読書空間：1930年代中国における大衆動員とリテラシーのメディア史的研究
発表者：比護 遥(京都大学)
コメンテーター：中村元哉(東京大学)
- 9月27日 社会史からみた二林蔗農事件——日本統治期台湾農民運動の再検討
発表者：都留俊太郎(京都大学)
コメンテーター：大門正克(早稲田大学)
- 10月11日 橋樑と1920年代日中の社会変革論——満洲国への射程
発表者：谷 雪妮(京都大学)
コメンテーター：江田憲治(京都大学)
- 10月25日 中国経済と「所有権」：土地・会社制度からの視点
発表者：梶谷 懐(神戸大学)
コメンテーター：岡本隆司(京都府立大学)
- 11月8日 南京国民政府の「強迫」期における社会教育——上海市を例に
- 研究実施内容
- 2019年
- 4月26日 世界の海上ハイウェイ—近代に貨物はどこにどれだけ運ばれたのか—
発表者：木越義則(名古屋大学)
コメンテーター：大島久幸(高千穂商科大学)
- 5月17日 広州入城問題の起源—マカートニー使節団からペインズ事件まで—
発表者：村尾 進(天理大学)
コメンテーター：井上裕正(奈良女子大学)
- 5月31日 清代北京の民間消防組織
発表者：堀地 明(北九州市立大学)
コメンテーター：高嶋 航(京都大学)
- 6月14日 清代後期重慶の社会的安定化と流動化—巴県檔案の団練関連記事より
発表者：小野達哉(同志社大学・非常勤)

- 発表者：角屋敷直哉（京都大学）
 コメンテーター：戸部 健（静岡大学）
- 11月22日 登記の時代（2）——1930年代、南京土地登記を阻むもの
 発表者：田口宏二郎（大阪大学）
 コメンテーター：吉澤誠一郎（東京大学）
- 12月16日 近代朝鮮における中国向け海産物の生産と流通——テングサを中心に
 発表者：石川亮太（立命館大学）
 コメンテーター：谷ヶ城秀吉（専修大学）
- 2020年 研究実施内容
- 1月10日 China's Mundane Revolution: Cheap Print, Common Readers, and Vernacular Knowledge in the Long Republic
 発表者：Joan Judge（York University）
 コメンテーター：高嶋 航（文学研究科）
- 1月24日 胡適と1927年「上海・四・一二反共クーデタ」——グリーダー『胡適』の書評として
 発表者：浜田直也（神戸女子大）
 コメンテーター：金丸裕一（立命館大学）
- 2月7日 牧志朝忠の活動とその意義：一九世紀東アジアの一通事
 発表者：張 子康（文学研究科）
 コメンテーター：木村直樹（長崎大学）
- 東アジア古典文献コーパスの実証研究
 班長 安岡孝一
 研究期間 2016年4月—2020年3月（4年度目）
 研究実施状況
 平成31年・令和元年度は、『孟子』『論語』『大学』『中庸』の全文をUniversal Dependenciesで記述した上で、カレル大学のUniversal Dependencies国際プロジェクトに参加し、漢文コーパス全文をWWW公開した。また、MeCabによる漢文形態素解析に加え、UDPipeによる依存文法解析ツールを製作し、UD-Kanbunというpythonモジュールとして公開した。さらに、自動訓読ツールUD-Kundokuも合わせて公開し、我々の漢文品詞体系およびUniversal Dependenciesにもとづく依存文法解析手法が、漢文を「読む」という局面において、実証的に応用可能であることを示した。
- 研究班員
 所内：Christian Wittern, 池田巧, 守岡知彦, 白須裕之
 学外：山崎直樹（関西大学）、二階堂善弘（関西大学）、師茂樹（花園大学）、鈴木慎吾（大阪大学）
- 2019年
 4月12日 2019年度活動方針
 4月26日 UD_Classical_Chinese-Kyoto（四書版）公開準備
 5月11日 人文科学とコンピュータ第120回研究会『Universal Dependenciesの拡張にもとづく古典中国語（漢文）の直接構成鎖解析の試み』
 5月24日 Universal Dependencies 2.4 公開
 6月14日 『Classical Chinese Sentence Segmentation』
 6月28日 UDPipe Visualizer with Immediate Catena Tree [Graphviz 併用版]
 7月12日 『大學』平行コーパスへの足掛かり
 9月13日 UD-Kanbun（古典中国語依存文法解析のためのpython3モジュール）公開
 9月27日 漢文 Universal Dependencies からの「文構造」抽出
 10月11日 『古詩文断句』動作検証
 10月25日 『一种基于循环神经网络的古文断句方法』
 11月8日 『大規模格フレームによる解候補削減を用いたニューラルネットゼロ照応解析』
 11月22日 Universal Dependencies 2.5 公開
 12月14日 じんもんこん：-)2019『漢日英 Universal Dependencies 平行コーパスと

その差異』
 12月15日 UD-Kundoku (古典中国語自動訓読の
 ためのpython3 モジュール)公開
 2020年
 1月17日 共同研究まとめ
 3月6日 東洋学へのコンピュータ利用

龍門北朝窟の造像と造像記

班長 稲本泰生
 研究期間 2017年4月-2021年3月(3年度目)
 研究実施状況
 龍門古陽洞の造像記のうち、年紀のあるものを対
 応する造像とともに取り上げて確認・検討を進め、
 2018年末で全点を終了した。2019年1月からは古
 陽洞の造像を無紀年・無銘分も含め、壁面のブロッ
 ク単位で全面的に再検討する作業を進め、ほぼ4分
 の3を完了している。当初三年間の計画であったが、
 古陽洞をはじめとする北朝窟の造像記の再検討に万
 全を期し、信頼できる資料集を制作するため研究期
 間を延長し、これまでの作業に継続して取り組むこ
 ととなった。

研究班員

所内：岡村秀典、安岡孝一、向井佑介、倉本尚徳、
 高志緑
 学内：内記理(文化財総合研究センター)、檜山
 智美(白眉センター)、アヴァンツィ・カ
 ルロッタ(大学院文学研究科)
 学外：佐藤智水(龍谷大学)、石松日奈子(東京
 国立博物館)、外山潔(泉屋博古館)、山名
 伸生(京都精華大学)、斎藤龍一(大阪市
 立美術館)、濱田瑞美(横浜美術大学)、大
 西磨希子(仏教大学)、田林啓(白鶴美術
 館)、上枝いづみ(金沢大学)、高橋早紀子
 (愛知学院大学)、苦名悠(大阪大谷大学)、
 折山桂子(独立行政法人国立博物館九州国
 立博物館)、北村一仁(河南農業大学)、王
 珏人(大阪大学)、黄盼(中国社会科学院)

研究実施内容

2019年
 4月9日 古陽洞北壁上層の再検討 第三回
 発表者：稲本泰生

4月23日 古陽洞北壁中層の再検討 第一回
 発表者：折山桂子
 5月14日 古陽洞南壁中層の再検討 第一回
 発表者：稲本泰生
 5月28日 古陽洞北壁千仏の再検討
 発表者：稲本泰生・安岡素子
 6月11日 古陽洞南壁中層の再検討 第二回
 発表者：稲本泰生
 7月9日 古陽洞北壁中層の再検討 第二回
 発表者：折山桂子
 7月23日 古陽洞南壁上層の再検討
 発表者：稲本泰生
 7月30日 古陽洞南壁千仏の再検討
 発表者：折山桂子・安岡素子
 10月19日 古陽洞西壁の再検討 第一回
 発表者：田林 啓
 11月12日 古陽洞西壁の再検討 第二回
 発表者：田林 啓
 11月26日 古陽洞北壁下層の再検討 第一回
 発表者：高志 緑
 12月12日 古陽洞北壁下層の再検討 第二回
 発表者：高志 緑

2020年

1月14日 古陽洞北壁下層の再検討 第三回
 発表者：稲本泰生
 1月28日 古陽洞北壁下層の再検討 第四回
 発表者：稲本泰生

前近代ユーラシア東方における戦争と外交

班長 岩井茂樹・古松崇志
 研究期間 2018年4月-2021年3月(2年度目)
 研究実施状況
 研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外
 交」について具体的に考察するための題材として、
 南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。
 16回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこな
 い、『中華再造善本』所収の中国国家図書館(北京
 図書館)所蔵の明鈔本を底本に、テキストの校訂・
 訳注作業を進め、巻四の途中から巻八までを読み終
 えた。また関連する研究発表を2回開催した。
 研究班員

所内：岩井茂樹，古松崇志，矢木毅，村上衛，高井たかね	宗朝」	発表者：藤本 猛
学外：井黒忍（大谷大学），伊藤一馬（大阪大学），岩本真利絵（大谷大学），遠藤総史（大阪大学），小野達哉（同志社大学），加藤雄三（専修大学），木村可奈子（名古屋大学），小林隆道（神戸女子大学），承志（追手門学院大学），城地孝（同志社大学），武田和哉（大谷大学），橋本雄（北海道大学），濱野亮介（大谷大学），藤原崇人（龍谷大学），船田善之（広島大学），水越知（関西学院大学），毛利英介（関西大学），齊藤茂雄（大阪大学），藤本猛（清泉女子大学），古畑徹（金沢大学），渡辺健哉（大阪市立大学）	10月15日 会読：『三朝北盟会編』巻六	発表者：毛利英介
	11月5日 会読：『三朝北盟会編』巻六	発表者：毛利英介
	11月19日 会読：『三朝北盟会編』巻六	発表者：高井たかね
		発表者：高井たかね
	12月3日 会読：『三朝北盟会編』巻七	発表者：水越 知
		発表者：水越 知
	12月17日 会読：『三朝北盟会編』巻七	発表者：遠藤総史
研究実施内容		
2019年		
4月9日 会読：『三朝北盟会編』巻四		発表者：小野達哉
4月23日 会読：『三朝北盟会編』巻四		発表者：木村可奈子
5月14日 会読：『三朝北盟会編』巻四		発表者：木村可奈子
		会読：『三朝北盟会編』巻四～五
		発表者：濱野亮介
5月28日 会読：『三朝北盟会編』巻五		発表者：岩本真利絵
6月11日 会読：『三朝北盟会編』巻五		発表者：岩本真利絵
6月25日 会読：『三朝北盟会編』巻五		発表者：武田和哉
7月2日 研究発表：「天津図書館蔵『大明恭穆獻皇帝實録』と嘉靖時代の編纂事業」		発表者：城地 孝
7月9日 会読：『三朝北盟会編』巻六		発表者：伊藤一馬
7月23日 会読：『三朝北盟会編』巻六		発表者：伊藤一馬
		会読：『三朝北盟会編』巻六
		発表者：矢木 毅
10月5日 研究発表：「北宋「君主独裁制」と徽		
	2020年	
	1月14日 会読：『三朝北盟会編』巻八	発表者：古松崇志
	1月28日 会読：『三朝北盟会編』巻八	発表者：小野達哉
	2月18日 会読：『三朝北盟会編』巻八	発表者：井黒 忍
	3世紀東アジアの研究	
		班長 森下章司
	研究期間 2018年4月～2021年3月（2年度目）	
	研究実施状況	
	2年目にあたる本年度は，昨年度にひきつづき基礎文献である『魏志』東夷伝の回読を進めるとともに，東アジア各地のさまざまな考古学的現象について検討した。おもに年度の前半に実施した『魏志』東夷伝の回読においては，韓・倭人条について関連する文献史料・考古資料と対比しながら読み進め，またその裴松之注に引用される『魏略』西戎伝についても検討をおこなった。これと併行して，中国・朝鮮半島・日本列島の飲食器や儀礼，水田や穀物栽培，都城制度，車輿制度，交易と交流などの問題に	

- ついで各班員が研究の成果を報告し、議論を深めた。
研究班員
- 所内：岡村秀典，稲本泰生，宮宅潔，古勝隆一，
古松崇志，向井佑介，藤井律之，高井たかね，
目黒杏子，大谷育恵
- 学内：吉井秀夫（文学研究科），下垣仁志（文学
研究科）
- 学外：長友朋子（立命館大学），井上直樹（京都
府立大学），諫早直人（京都府立大学），金
宇大（滋賀県立大学），山本堯（泉屋博古
館）
- 研究実施内容
- 2019年
- 4月12日 漢魏における胡漢の交易と交流
発表者：向井佑介
- 4月26日 『魏志』東夷伝・韓条
発表者：田中一輝
（立命館大学・非常勤）
- 5月10日 『魏志』東夷伝・倭人条
発表者：田中一輝
（立命館大学・非常勤）
- 6月14日 古代中国飲食儀礼と俎豆
発表者：森下章司（大手前大学）
- 6月28日 『魏志』東夷伝（『魏略』西戎伝）
発表者：田中一輝
（立命館大学・非常勤）
- 7月12日 倭人列島から倭国形成へ—紀元前・
紀元後の社会変化と統合に向けての考
古現象複数軸の整合性をめぐって〔前
篇〕—
発表者：森岡秀人
（関西大学・非常勤）
- 10月11日 古代の馬車から中世の牛車へ
発表者：（岡村秀典）
- 10月25日 古代中国の農業資料
発表者：森下章司（大手前大学）
水田模型と穀物調整農具について
発表者：馬淵一輝（文学研究科）
- 11月8日 3世紀を前後する時期の日韓の穀物食
発表者：庄田慎矢
（奈良文化財研究所）
- 11月22日 太一・北辰・太極—中国都城と宇宙
- 論— 発表者：田中一輝
（立命館大学・非常勤）
- 12月13日 中・韓・日の礼器
発表者：長友朋子（立命館大学）
- 2020年
- 1月10日 俎豆から杯盤へ
発表者：森下章司（大手前大学）
- 1月24日 伝世と倣古—周代青銅葬器の時間性
をめぐる試論—
発表者：山本 堯（泉屋博古館）
- 2月14日 倭人列島から倭国形成へ—紀元前・
紀元後の社会変化と統合に向けての考
古現象複数軸の整合性をめぐって〔後
篇〕— 発表者：森岡秀人
（関西大学・非常勤）
- 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
班長 稲葉 稜
- 研究期間 2019年4月—2022年3月（1年度目）
- 研究実施状況
- 本年度の研究会は、ペルシア語写本会読と研究報
告の二本立てで進めた。前者は近年イランにおいて
発見された首尾を欠く手写本で、12世紀に'Abd
al-Rahman al-Famiの手で書かれた『ヘラート史』
だと考えられている。同書はイスラム時代初期のイ
ラン東方に関する独自の情報を記録しており、会読
によって従来知られていなかったいくつかの点が明
らかになると期待されている。一方研究報告につい
ては、正規の研究班員に加え、海外からのゲストを
招待しての研究報告会を何度か開催し、最新の内陸
アジア研究事情に関わる情報を共有した。
- 研究班員
- 所内：船山徹，稲本泰生，中西竜也，宮本亮一
学内：檜山智美，井谷鋼造（大学院文学研究科），
吉田豊（文学研究科），帯谷知可（東南ア
ジア地域研究研究所），内記理（文学研究
科），角田哲朗（文学研究科），今松泰（ア
ジア・アフリカ地域研究研究所）
- 学外：天津谷馨（リエージュ大学），川本正知
（奈良大学），和田郁子（岡山大学），入澤

- 崇 (龍谷大学), 小野浩 (京都橘大学), 真下裕之 (神戸大学), 伊藤隆郎 (神戸大学), 岩井俊平 (龍谷大学), 井上陽 (相愛大学), 影山悦子 (奈良文化財研究所), 上枝いづみ (金沢大学), 杉山雅樹 (京都外国語大学), 田中悠子 (ロンドン大学), Erika Forte (Austrian Academy of Sciences), 小倉智史 (東京外国語大学)
- 研究実施内容
- 2019 年
- 4 月26日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
イスラーム新思想の東伝——中国ムスリム学者, 馬徳新の聖者崇敬批判
発表者: 中西竜也
- 5 月24日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Fami『ヘラート史』会読
発表者: 稲葉 稔
- 6 月14日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Fami『ヘラート史』会読
発表者: 稲葉 稔
- 6 月28日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
The Buddhist Caves at Kanheri in Western Deccan
発表者: Pia Brancaccio (Drexel University)
- 7 月12日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
ハーフィズ・アブールの「チャガタイ・ハン紀」—校訂の過程でわかったこと
発表者: 川本正知 (奈良大学)
- 7 月26日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Turanians of Asia: Myths and the Missing Race
発表者: Vimalin Rujivacharakul (Delaware University)
- 9 月27日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Fami『ヘラート史』会読
発表者: 杉山雅樹 (京都外国語大学)
- 12月13日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Fami『ヘラート史』会読
発表者: 杉山雅樹 (京都外国語大学)
- 11月8日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Encircled by Mountains, Connected by Dunes: Networks of Buddhist Monasteries in Central Asia
発表者: Erika Forte (Austrian Academy of Sciences)
- 12月13日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
At the Fulcrum of Power: Transnational Trade and Diplomacy in the Shahi Period, 7th–10th Centuries
発表者: Deborah Klimburg-Salter (University of Vienna)
- 2020 年
- 1 月24日 前近代内陸アジアとその隣接地域の文化と社会
Fami『ヘラート史』会読
発表者: 杉山雅樹 (京都外国語大学)
- 20 世紀中国史の資料的復元**
班長 石川禎浩
- 研究期間 2019 年 4 月–2022 年 3 月 (1 年度目)
- 研究実施状況
隔週金曜午後に研究班例会を開催することを中心に活動を進めた。班員は 30 数名, 毎回の研究班例会の出席者は 20 名程度であった。年度末になり, 新型コロナウイルスの感染拡大による研究活動の中断があったものの, それ以前に開催した例会は, 15 回を数え, 毎回事前にレジュメを班員に配布し, またコメントーターをつけて, 専門の見地から議論を深められるよう工夫した。研究班では, まず報告者が 1 時間半程度の報告を行ったあと, コメントーターが 30 分程度の批評を加え, その上で全体討論

を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり、初年度であるにもかかわらず、活発な議論が可能となった。また、2名の招聘外国人学者をはじめ、(主として中華人民共和国からの)複数の外国人研究者・院生が継続的に参加していることも本研究班の特色であり、彼らとの討論を通じて、中国の近現代史関連の基本的な文献や資料集の成り立ちについての理解をいっそう深めることができた。資料的復元として、注目すべき研究・対象としては、吉野作造『支那革命小史』や、中国近代の代表的総合雑誌である『東方雑誌』などが組上にあげられ、それらを資料として扱う場合の問題点や注目点が提示された。また、こうした活字資料以外としては、イギリス外交文書やキリスト教ミッション報告書、日中戦争期に宣撫工作を行った日本人の戦後インタビューなど、いわゆるオリジナル資料の発掘や分析も行われ、20世紀中国を立体的に見る上での、多様な視座が提起された。

研究班員
所内：岩井茂樹，村上衛，福家崇洋，漆麟，王剛，郭まいか

学内：江田憲治（人間・環境学研究科），瞿艷丹（文学研究科），谷雪妮（文学研究科），高嶋航（文学研究科），太田出（人間・環境学研究科），比護遙（教育学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），李ハンキョル（文学研究科），秋田朝美（経済学研究科）

学外：韓燕麗（東京大学），菊池一隆（愛知学院大学），島田美和（慶應義塾大学），鄒燦（大阪大学），瀬戸宏，瀬辺啓子（佛教大学），田中仁（大阪大学），谷川真一（神戸大学），団陽子（神戸大学），都留俊太郎（同志社大），土肥歩（同志社大），中村元哉（東京大学），丸田孝志（広島大学），三田剛史（明治大学），水羽信男（広島大学），宮内肇（立命館大学），森川裕貫（関西学院大学），山崎岳（奈良大学），楊韜（佛教大学），林礼釗（大阪大学）

研究実施内容

2019年

- 5月10日 「20世紀中国史の資料的復元」班を開始するにあたって 発表者：石川慎浩
- 5月24日 戦後日本における中国近現代史関連資料集について
発表者：小野寺史郎（埼玉大学）
コメンテーター：田中 仁（大阪大学）
- 6月7日 宣撫工作報告・回想録・戦後インタビュー——宣撫班熊谷康と中国農村
発表者：太田 出（人間・環境学研究科）
コメンテーター：広中一成（愛知大学）
- 6月21日 植田捷雄の上海租界認識について
発表者：郭 まいか
コメンテーター：江田憲治（人間・環境学研究科）
- 7月5日 吉野作造『支那革命小史』及び北一輝『支那革命外史』の検討
発表者：福家崇洋
司会：奈良岡聰智 法学研究科
- 10月4日 胡適関連史料の編纂とその問題
発表者：森川裕貫（関西学院大学）
コメンテーター：宮内 肇（立命館大学）
- 10月18日 日中戦争の勃発と台湾における精神動員
発表者：鄒燦（大阪大学）
コメンテーター：太田 出（人間・環境学研究科）
- 11月1日 1930年代棉花に関する史料の検討——日・中・米三国間関係を中心に
発表者：秋田朝美（経済学研究科）
コメンテーター：都留俊太郎（同志社大学）
- 11月15日 東亜同文会調査部と『支那年鑑』の編纂
発表者：王剛
コメンテーター：高嶋 航（文学研究科）
- 12月6日 反右派闘争における「右派言論集」の史料的价值について——儲安平を中心に 発表者：林礼釗（大阪大学）

彙 報

	コメンテーター：谷川真一 (神戸大学)	技術・自然・(ポスト)現代性の思想——哲学的探求	佐藤 淳二
12月20日	清末広西における壬寅奇災と英領香港：救済活動報告書の分析 発表者：土肥 歩 (同志社大学) コメンテーター：蒲 豊彦 (京都橘大学)	近代天皇制の文化史的研究 近代日本美術と西洋 人種・エスニシティ論 ヴェーダ文献の生成と伝承の研究 西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身体性	高木 博志 高階絵里加 竹沢 泰子 藤井 正人 石井 美保
2020年			
1月17日	中国共産党史資料の復元——『中央軍事通訊』第1期をめぐる 発表者：江田憲治 (人間・環境学研究科) コメンテーター：小野寺史郎 (埼玉大学)	近代トランスコーカサス(特にグルジア)における 匪賊 近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想 近現代日本の社会史、思想史、技術史	伊藤 順二 王寺 賢太 KNAUDT, Till
1月31日	1910年代『東方雑誌』の出典に関する検討：杜亜泉研究との関係 発表者：李 ハンキョル (文学研究科) コメンテーター：森川裕貴 (関西学院大学)	東アジアにおける生命科学と「自然」 精神分析的知の思想史的位置づけ 近現代日本の社会運動・社会思想 農業史の再構築 フランス象徴主義と文学的モデルニテ 皇室の土地所有に関する歴史的研究 近代日本民俗誌システムの研究	瀬戸口 明久 立木 康介 福家 崇洋 藤原 辰史 森本 淳生 池田さなえ 菊地 暁
2月14日	在華イギリス領事報告の整理と利用：FO228を中心に 発表者：(村上 衛) コメンテーター：鄒燦 (大阪大学)	在米日・墨移民の相互関係に関する歴史的研究— 環太平洋の視点から 啓蒙と文学—アドルフ美学における「人間性」の 位置づけ—	徳永 悠 藤井 俊之
2月28日	第二次世界大戦期の中国における「敵国人」「戦俘」問題について——ニルス・A・ベンツ文書を基礎として 発表者：貴志俊彦 (東南アジア地域研究研究所) コメンテーター：大澤武司 (福岡大学)	先秦時代の金文 川西走廊の漢藏諸語の記述研究 中国共産党史の研究 イスラーム東漸史の研究 東アジア仏教美術史の研究 近代中国の財政と社会 仏教研究知識ベース—禅仏教を例として	浅原 達郎 池田 巧 石川 禎浩 稲葉 穰 稲本 泰生 岩井 茂樹 WITTERN, Christian
	個人研究		
	人文学研究部		
	近世社会解体過程の研究	岩城 卓二	岡村 秀典
	近代西洋音楽史	岡田 暁生	武田 時昌
	戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人	船山 徹
	イギリス・アイルランド近現代史	小関 隆	宮宅 潔 矢木 毅 安岡 孝一

人 文 学 報

- 六朝隋唐仏教史の研究 倉本 尚徳 2019年 4月20日
 中国注釈学史研究 古勝 隆一 於 京都大学人文科学研究所本館 4F 大会議室
 中国イスラームの研究 中西 竜也 講演者：Gavin Walker (マギル大学)
 中国中世近世の文学理論 永田 知之
 東アジア伝統科学の研究 平岡 隆二 ・国際シンポジウム「人種主義・反人種主義の越境
 10～13世紀ユーラシア東方における王朝間関係の と転換」
 研究 古松 崇志 2019年 5月18日, 5月19日
 歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究 於 新丸の内ビルディング 10階京都アカデミア
 向井 佑介 フォーラム in 丸の内
 近代華南沿海の社会経済制度の変容 村上 衛 5月18日(土)
 東方学における対象の論理学的研究 白須 裕之 植民地期ラテンアメリカにおける社会秩序と人種秩
 南宋期道学の経書解釈 福谷 彬 序 Jean-Frédéric Schaub
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね (フランス社会科学高等研究院)
 中国古代中世の官制史 藤井 律之 明治の教科書にみられる「人種」・「民族」記述
 東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の 竹沢 泰子
 研究 宮 紀子 20世紀ヨーロッパ史における法と人種
 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 Silvia Falconieri
 守岡 知彦 (フランス国立科学研究センター)

事業概況

- ・北白川 EFEO サロン「日本における宗教と民衆
 への教え (16～19世紀)」
 2019年 4月12日
 於 フランス極東学院京都支部
 「施印」というメディア—近世後期京都「孝学所」
 施印の流通と意味
 講演者：ニールス・ファンステーンパール
 (京都大学)
 ・ Kyoto Lectures 2019
 2019年 4月18日
 於 フランス国立極東学院京都支部・イタリア東
 方学研究所
 Rule of (Cosmological) Law: the Rhetoric of Au-
 thority in Japan's Medieval Mirrors
 講演者：Erin L. Brightwell (ミシガン大学)
 ・公開研究会「The Will To Strategy: Foucault's
 Interregnum, 1976-79」
 ・ Kyoto Lectures 2019
 2019年 4月20日
 於 京都大学人文科学研究所本館 4F 大会議室
 講演者：Gavin Walker (マギル大学)
 ・国際シンポジウム「人種主義・反人種主義の越境
 と転換」
 2019年 5月18日, 5月19日
 於 新丸の内ビルディング 10階京都アカデミア
 フォーラム in 丸の内
 5月18日(土)
 植民地期ラテンアメリカにおける社会秩序と人種秩
 序 Jean-Frédéric Schaub
 (フランス社会科学高等研究院)
 明治の教科書にみられる「人種」・「民族」記述
 竹沢 泰子
 20世紀ヨーロッパ史における法と人種
 Silvia Falconieri
 (フランス国立科学研究センター)
 「国際結婚」言説の配置と変容から見る近代日本の
 人種・人種化論 長志珠絵 (神戸大学)
 日本統治下の台湾における植民地人類学, 「理蕃」
 政策, 先住民族の人種化過程 Arnaud Nanta
 (フランス国立科学研究センター)
 生政治的統治のグローバルな展開と被差別部落
 関口 寛 (四国大学)
 討論 コメンテーター：平野千果子 (武蔵大学),
 松本悠子 (中央大学) 坂野 徹 (日本大学)
 5月19日(日)
 東ユーラシアの人類集団史とゲノム多様性
 太田 博樹 (北里大学)
 祖先ルーツ判定の DNA 検査は人種主義的イデオロ
 ギーを反証できるか
 Sarah Abel (アイスランド大学)
 19世紀前半のフランスにおける人種科学と政治学
 Claude-Olivier Doron (パリ第七大学)
 反人種差別と霊の普遍主義—日印ナショナリズムの
 交差と分岐 田辺 明生 (東京大学)
 討論 コメンテーター：大橋 順 (東京大学)
 池亀 彩 (東京大学)

2019年5月27日

於 フランス国立極東学院京都支部

Observing Japanese mythologies: Why the Nihon Shoki has two books with myths but the Kojiki only one?

講演者: Robert F. Wittkamp (関西大学)

・公開講演会「フーコーとマルクス 現代世界における『戦争』と統治性」

2019年6月15日

於 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室

講演者: サンドロ・メッザードロ
(ボローニャ大学准教授)

・Kyoto Lectures 2019

2019年6月24日

於 フランス国立極東学院京都支部

Andreas Kim Taegŏn (1821-1846): The Clandestine Life and Heroic Afterlife of the First Korean Catholic Priest

講演者: Pierre-Emmanuel Roux
(パリ・デイドロ大学)

・講演会「イヴァン・ジャブロンカ、『私にはいなかった祖父母の歴史』を語る」

2019年6月27日

於 アンステイチュ・フランセ関西—京都 稲畑ホール

講演者: イヴァン・ジャブロンカ
(パリ第13大学教授)

・北白川 EFEO サロン「日本における宗教と民衆への教え (16~19世紀)」

2019年6月28日

於 人文科学研究所本館1階セミナー室1

近世日本に発信された禅——禅宗仮名法語の思想についての考察

講演者: ディディエ・ダヴァン
(国文学研究資料館准教授)

・人文研アカデミー 2019 「本づくりの舞台裏『京大人文研東方学叢書』を語る in 東京」

2019年6月30日

於 明治大学リバティタワー3階1032

老荘思想は役に立つのだろうか、そもそも読書は有益か

古勝 隆一

「書くこと」の意味を求めて——前近代中国における文学観の一斑

永田 知之

仏教修行者の内面的な信仰を客観的に描写する

船山 徹

・イヴ=マリ・アリュエ追悼記念講演会「日本詩を仏訳する幸せ」

2019年7月6日

於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1

講演者: プリジット・アリュエ
(日本文学研究者・翻訳家)

・人文研アカデミー 2019 夏期公開講座「名作再読いま読んだらこんなに面白い 13」

2019年7月13日

於 京都大学人文科学研究所本館(総合研究4号館)共通1講義室

可能性としての子ども／風土記—『北白川こども風土記』を中心に—

菊地 暁

田中逸平『白雲遊記』——大正時代の日本人によるメッカ巡礼の記録

中西 竜也

インド古典が語る理想の「終活」—五木寛之著『林住期』から話を始めて

藤井 正人

・Kyoto Lectures 2019

2019年7月18日

於 フランス国立極東学院京都支部

The “Global Novel” of Murakami Haruki and Elena Ferrante: A Comparative Perspective

講演者: Francesco Eugenio Barbieri
(カタニア大学)

・特別講演会「Turanians of Asia: Myths and the Missing Race」

2019年7月26日

- 於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
1 講演者：Vimalin Rujivacharakul
(デラウェア大学教授)
- 毛沢東像の成立—プロパガンダと民俗利用
丸太 孝志 (広島大学総合科学研究科教授)
10月17日 (木)
毛沢東の文革思想—ユートピアから陰謀論まで
谷川 真一
(神戸大学国際文化学研究所教授)
- ・特別講演会「The Development of Colossal Images within the Buddhist Tradition of South Asia」
2019年7月27日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
1 講演者：Pia Brancaccio
(ドレクセル大学教授)
- ・人文研アカデミー2019連続セミナー「人文研90周年『みやこの学術資源』の継承と発信」
2019年10月15日, 10月24日, 11月7日, 11月14日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
1
- ・高校生のための夏期セミナー「～人文学への招待～ 歴史にじかに触れる」
2019年8月17日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
1
- 歴史をふりかえるということ—第一次世界大戦をめぐる— 伊藤 順二
紙の発明がもたらしたもの 藤井 律之
- 10月15日 (火)
桑原武夫の世界—その書簡や遺品から考える
講師：根津朝彦 (立命館大学准教授),
岩田陽子 (福井ふるさと文学館学芸員)
コーディネーター：藤原 辰史
- 10月24日 (木)
京都における日仏交流史—関西日仏学館と上海—京都ルート
講師：趙怡 (関西学院大学教授),
藤野 志織 (人間・環境学研究科博士後期課程)
コーディネーター：立木 康介
- ・Kyoto Lectures 2019
2019年9月18日
於 フランス国立極東学院京都支部
The Multiple Faces of Japanese Military Disobedience, 1868-1937: Roots and Consequences
講演者：Danny Orbach
(イエルサレム・ヘブライ大学)
- 11月7日 (木)
ガンダーラとバーミヤーン—京大隊調査資料から失われた仏教寺院の姿をさぐる
講師：内記 理
(文学研究科附属文化遺産学・
人文知連携センター助教)
コーディネーター：向井 佑介
- ・人文研アカデミー2019連続セミナー「毛沢東
どんな男だったのか」
2019年9月26日, 10月3日, 10月10日, 10月17日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
1
- 11月14日 (木)
京大人文研と社会運動史研究
講師：黒川 伊織 (神戸大学協力研究員)
講師・コーディネーター：福家 崇洋
コメンテーター：伊藤 晃,
加藤 哲郎 (一橋大学名誉教授)
- 9月26日 (木)
毛沢東—書家として, 詩人として 石川 禎浩
- 10月3日 (木)
毛沢東の「農村による都市の包囲」戦略—淮海戦役を中心に 江田 憲治
(京都大学人間・環境学研究科教授)
- 10月10日 (木)
・2019年度アンナ・ザイデル記念講演会
2019年10月24日
於 人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究
センター二階大会議室

Imperiled Destinies : Debt and Redemption in Medieval Daoism

講演者：Franciscus Verellen
(フランス国立極東学院教授)

・ Kyoto Lectures 2019

2019年10月31日

於 フランス国立極東学院京都支部

The French Campaign Against Imports of Japanese Cultured Pearls in the Interwar Years

講演者：William G. Clarence-Smith
(ロンドン大学)

・ 人文研アカデミー 2019 研究集会「現場から考える天皇制」

2019年11月10日

於 京都大学人文科学研究所本館 4F 大会議室

近代天皇制と天皇就任儀礼 高木 博志
「象徴天皇」とは何か？ —— 天皇制の中に生きる私たちの自由と権利と責任

池田 浩士 (京都大学名誉教授)

帝国の調整者としての女王 —— 比較対象としてのイギリス 井野瀬久美恵 (甲南大学文学部教授)
「反日」「非国民」「不敬」をつなぐもの —— 民族的他者を析出する装置としての天皇制

駒込武 (京都大学大学院教育学研究科教授)

パンパンといわれたおんなたちと「天皇制」のおとこたち (仮)

茶園 敏美 (京都大学人文科学連携研究者)

天皇制と現代文明の行方 福家 崇洋
司会：藤原 辰史

・ 人文研アカデミー 2019 シンポジウム「みることの広がり～1910-20年代の展覧体験～」

2019年11月23日

於 京都大学人文科学研究所本館 4F 大会議室

【報告 1】美術趣味の普及 — 初期文展時代の展示と観衆 高階絵里加

【報告 2】ショーウィンドーはなにをみせたのか — 黎明期の全国的な流行から考える

竹内 幸絵 (同志社大学社会学部教授)

【報告 3】「みる」を体験する場 — 商品陳列所という都市施設の役割 三宅拓也

(京都工芸繊維大学デザイン・建築学系助教)

【報告 4】複製技術時代の芸術 — 映画を“見る”という体験の多様性 谷川健司

(早稲田大学政治経済学術院客員教授)

・ Kyoto Lectures 2019

2019年11月28日

於 フランス国立極東学院京都支部

Early Encounters of Shin Buddhism with Shintō: “Interreligious” Contacts and Hagiography

講演者：Markus Rüsç (日本学術振興会)

・ 京都大学人文科学研究所創立九十周年記念講演会「人文学の可能性 危機とその突破」

2019年11月29日

於 芝蘭会館稲盛ホール

人文研の中国学 — 百周年を展望して

金文京 (京都大学名誉教授)

人文研と「評価」の間

井野瀬久美恵 (甲南大学文学部教授)

「生きるための人文学」に向けて 石井 美保
司会：藤原 辰史

・ 北白川 EFEO サロン「日本における信仰と『知』のはざま — 中世・近世・近代を中心に —」

2019年12月 7日

於 フランス国立極東学院京都支部

江戸の幻術と、その使い手たち — 果心居士の物語を中心として —

講師：門脇大 (神戸星城高等学校非常勤講師)

・ Kyoto Lectures 2019

2019年12月10日

於 フランス国立極東学院京都支部

Between the Meiji Restoration and Ezo Republic: The Boshin War Viewed from Hakodate

講演者：Steven Ivings

(京都大学大学院経済学研究科講師)

- ・特別講演会「Chinese Christian Books in Nagasaki: From Censorship to Circulation」
2019年12月17日
於 フランス国立極東学院京都支部
講演者：M. Antoni J. Ucerler
(サンフランシスコ大学)
- ・人文研アカデミー 2019 シンポジウム「愛のディスクール ポール・ヴァレリー『恋愛書簡』を読む」
2019年12月21日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1
抽斗にしまった手紙—ロヴィラ夫人問題を考える
今井 勉 (東北大学大学院文学研究科教授)
- 「カリンとポールの物語」あるいは《Ave atque Vale》
松田 浩則
(神戸大学大学院人文学研究科教授)
- 恋文を書くナルシス—「愛」の女性単数形をめぐって
鳥山 定嗣 (名古屋大学人文学研究科准教授)
- ヴァレリーと犯罪—カトリーヌ・ボッジとの往復書簡と1920年代の変貌
塚本 昌則
(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
- 愛のエリクチュールと「不可能な文学」—マラルメ、恋愛書簡、「私の精神の回想録」
森本 淳生
- ・出版記念シンポジウム「環太平洋地域の移動と人種」
2020年1月12日
於 キャンパスプラザ2階 第3会議室
- ・北白川 EFEO サロン「日本における信仰と『知』のはざま—中世・近世・近代を中心に—」
2020年1月17日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1
「夜の訪問者」幽霊の比較文化史を考える
講師：フランソワ・ラショウ
(フランス国立極東学院教授)
- ・国際シンポジウム「批評と真理—パレーシア
- について」
2020年1月25日
於 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室
講演者：Philippe Sabot (リール第3大学教授),
市田良彦 (神戸大学教授)
- ・公開合評会「ドゥルーズ、フーコー、小泉の霊性—小泉義之著『ドゥルーズの霊性』をめぐって」
2020年1月26日
於 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室
評者：市田良彦 (神戸大学教授),
廣瀬純 (龍谷大学教授),
千葉雅也 (立命館大学准教授)
- ・Kyoto Lectures 2019
2020年1月29日
於 フランス国立極東学院京都支部
Environmental Expertise in Modern Japan and the Ashio Copper Mine Case
講演者：Cyrian Pillelud
(ジュネーヴ大学/フランス極東学院)
- ・公開セミナー「ミシェル・フーコーにおける真理とフィクション」
2020年1月30日
於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室1
レクチャー：Philippe Sabot
(リール第3大学教授),
坂本尚志 (京都薬科大学准教授)
- ・Kyoto Lectures 2020
2020年2月7日
於 フランス極東学院京都支部
Art, Gender, and Community in an Age of Revolution: The Life of a Samurai Housewife and Artist in Kishū Domain, 1830-1880
講演者：Simon Partner
(デューク大学)
- ・一般公開セミナー「明智光秀は名医!? だった—

「転換期の医術と戦国武将―」
 2020年2月8日
 於 京都大学芝蘭会館山内ホール
 光秀所伝「針薬方」の薬方と鍼灸
 長野 仁（森ノ宮医療大学大学院教授）
 中世日本における金瘡医の出現と金瘡書の成立
 鈴木 達彦（帝京平成大学薬学部准教授）
 「針薬方」を伝えた男、米田貞能とは？
 山田 貴司（熊本県立美術館学芸員）
 越前一乗谷の医薬史と明智光秀の前半生
 石川 美咲
 （福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館学芸員）
 明智光秀―牢人医師はなぜ謀反人となったか―
 早島 大祐（関西学院大学文学部教授）
 総合司会：武田 時昌

・北白川 EFEO サロン「日本における信仰と『知』
 のはざま―中世・近世・近代を中心に―」
 2020年2月21日
 於 フランス国立極東学院京都支部
 キリシタン布教における理性と信仰
 講師：平岡 隆二

・特別講演会「Rediscovering the Iranian Antiquity : Recent Archaeological and Epigraphical Researches on the Sasanian Sites」
 2020年2月21日
 於 京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室
 1
 The Paikuli Project : Researches on Narseh's Monument and Inscription in Iraqi Kurdistan
 Carlo Cereti（ローマ大学）
 Takht-e Soleyman in the Light of Archaeological Excavations : Report of Seasons 2002-2008
 Yousef Moradi（ロンドン大学）

・第7回シンポジウム「古代・中世インドの社会と宗教―『聖典』の諸相―」
 2020年2月23日
 於 京都大学芝蘭会館別館研修室2
 パーニニ文法学における聖典と言語 尾園 絢一
 アーラニヤカ文献の śānti マントラ―「聖典」の

形成過程を考える 梶原三恵子
 無遮会のおこり―諸聖典の比較から見えてくこと 手嶋 英貴
 ミーマーンサーの王権論とその偏向―Rājasūyaの祭主資格について 吉永 清孝
 インド密教における聖典と注釈文献 菊谷 竜太
 マドゥスーダナ・サラスヴァティーの『バーガヴァタ註』における『バーガヴァタ・ブラーナ』の目的と kāṇḍatraya 眞鍋 智裕
 「スダナとマノーハラー」物語の「証拠の指輪」―古代日本への道を考える 中村 史
 ヴァードウーラ学派とヴェーダ祭式の聖典 井狩 彌介

・合評会「環太平洋地域の移動と人種」
 2020年3月9日
 於 新丸の内ビルディング10階 京都アカデミアフォーラム in 丸の内
 評者：飯島真里子、貴堂 嘉之、津田 浩司

招へい研究員

・Walker, Gavin マギル大学大学院歴史学部准教授
 ポスト68年日本の思想史的再検討
 （文化連関研究客員部門）
 受入教員 王寺准教授
 期間 2019年3月1日～2019年5月31日

・楊 振紅 南開大学歴史学院教授
 出土史料を用いた中国古代法制史の研究
 （文化生成研究客員部門）
 受入教員 宮宅教授
 期間 2019年3月8日～2019年6月7日

・BRANCACCIO Pia ドレクセル大学准教授
 南アジア美術における佛教の記念碑的建造物の研究
 （文化生成研究客員部門）
 受入教員 稲葉教授
 期間 2019年6月15日～2019年9月14日

・Orbach Danny エルサレム・ヘブライ大学

Senior Lecturer

1880年代朝鮮半島における大陸浪人の歴史研究

(文化連関研究客員部門)

受入教員 福家准教授

期間 2019年7月1日～2019年9月30日

- ・ Harrison Faye イリノイ大学アーバナシャン
ペーン校人類学科／アフリカ系アメリカ研究教授
人種・人種化・(不)可視性をめぐる人類学的研
究

(文化生成研究客員部門)

受入教員 竹沢教授

期間 2019年9月22日～2019年12月22日

- ・ JUDGE Joan ヨーク大学歴史学部教授
清末民国初期の啓蒙書(日用類書)とその中国読
者

(文化連関研究客員部門)

受入教員 石川教授

期間 2019年9月25日～2020年3月15日

- ・ Ferente Serena ロンドン大学キングズ・カレッ
ジ歴史学科准教授

中世・ルネサンス期のイタリア・地中海史

(文化生成研究客員部門)

受入教員 小関教授

期間 2020年1月1日～2020年3月31日

招へい外国人学者

- ・ 漆 麟 西南大学美術学院准教授
日中戦争期のモダニズム美術に関する日中比較研
究

受入教員 石川教授

期間 2017年11月15日～2019年11月14日

- ・ JACQUET, BENOIT フランス国立極東学院准
教授

建築文化からみたアジアのフロンティアの研究

受入教員 稲葉教授

期間 2018年7月17日～2019年6月30日

- ・ 宋 丹 湖南大学外国語与国際教育学院日語系助
理教授

日本における『紅樓夢』の翻訳と受容に関する研

究

受入教員 永田准教授

期間 2018年7月25日～2019年6月30日

- ・ VERDON, Noemie ナーランダー大学講師
6-11世紀カーピシー＝ガンダーラ地方の宗教・
学術・政治史の研究

受入教員 稲葉教授

期間 2018年8月1日～2019年7月31日

- ・ 秦 翠翠 河南理工大学外国語学部講師
京都における「洛陽」文化の受容

受入教員 岡村教授

期間 2018年10月22日～2019年10月21日

- ・ 王 剛 西南大学歴史文化学院講師

日本と清末の軍事改革

受入教員 石川教授

期間 2018年11月28日～2019年11月27日

- ・ 陳 偉 武漢大学歴史学院教授

中国秦漢時代の簡牘史料よりみた古代帝国の実像

受入教員 宮宅准教授

期間 2018年11月28日～2019年12月9日

- ・ 李 瑄 四川大学中国民俗文化研究所教授
清初渡日黄檗僧の研究

受入教員 永田准教授

期間 2019年2月1日～2020年1月31日

- ・ 李 磊 華東師範大学歴史学系副教授

秦漢六朝時代の東アジアにおける政治構造と天下
概念

受入教員 宮宅准教授

期間 2019年2月28日～2020年2月27日

- ・ 汪 娟 銘伝大学教育暨応用語文学院応用中国文
学系教授

敦煌摩尼教文献と仏教の関係

受入教員 永田准教授

期間 2019年4月1日～2019年8月31日

- ・ 許 全勝 復旦大学文史研究院副研究員

漢唐の石刻と文体の研究

受入教員 永田准教授

期間 2019年4月15日～2019年8月15日

- ・ 秦 樺林 浙江大学中国古代史研究所講師

日藏古写本、秦漢簡牘

受入教員 永田准教授

- 期間 2019年5月1日～2020年4月30日
 ・劉 雅君 上海大学社会科学学部副教授
 東アジア史の視点からみた漢唐時代の皇太子制度
 受入教員 宮宅教授
- 期間 2019年7月31日～2020年7月30日
 ・陳 瑤 厦門大学人文学院歴史系・助理教授
 中国近代長江中流域木造船帆航運業の研究
 受入教員 村上准教授
- 期間 2019年8月22日～2020年8月21日
 ・FOGEL, Joshua ヨーク大学歴史学部教授
 20世紀の日本と中国におけるエスペラント運動
 について
 受入教員 石川教授
- 期間 2019年9月26日～2020年3月15日
 ・方 艶 江蘇師範大学文学院教授
 中日王権神話の比較研究
 受入教員 岡村教授
- 期間 2019年10月21日～2020年10月20日
 ・張 葦航 上海中醫薬大学科技人文研究院副教授
 日本古医書研究
 受入教員 平岡准教授
- 期間 2019年11月28日～2020年7月31日
 ・馬 茜 寧夏行政学院政治学教研部副教授
 抗日戦争時期の日本の“回教工作”に関する研究
 受入教員 中西准教授
- 期間 2019年12月9日～2020年11月30日

外国人共同研究者

- ・李 媛 北海道大学文学研究科専門研究員
 日本古辞書の翻刻階層モデルの構築に関する人文
 情報学的研究
 受入教員 安岡教授
 期間 2017年9月11日～2019年9月10日
- ・魏 永康 東北師範大学歴史文化学院講師
 秦漢時代の民族政策と辺境統治
 受入教員 宮宅准教授
 期間 2017年9月21日～2019年9月20日（継続）
- ・李 子捷 日本学術振興会外国人特別研究員
 中国5～8世紀の如来蔵思想の根本的再評価

- 受入教員 船山教授
 期間 2018年4月20日～2019年4月19日
- ・林 磊 復旦大学歴史学系博士課程
 1937～1945年に日本学者が華北で実施した考古
 調査と中国学界への影響
 受入教員 岡村教授
- 期間 2019年3月28日～2019年9月28日
 ・陳 鳴 華南農業大学人文与法学院講師
 秦漢『盗律』・『賊律』の研究
 受入教員 宮宅教授
- 期間 2019年8月19日～2020年8月18日
 ・HAYASHI, John ハーバード大学 Ph.D. Candi-
 date
 日本統治時代から戦後にかけての台湾における治
 水事業や衛生事業
 受入教員 藤原准教授
- 期間 2019年9月15日～2020年9月1日
 ・趙 檬錫 ハイデルベルク大学 Ph.D. Candidate
 東アジアにおける救荒作物に関する書籍の研究
 受入教員 藤原准教授
- 期間 2019年10月7日～2020年3月31日
 ・PITTELOUD, Cyrian Janek フランス国立極東
 学院 Research Assistant
 近代日本における水質汚染と環境紛争について
 入教員 福家准教授
- 期間 2020年1月9日～2020年8月31日
 ・SCHAEFER, Charlotte Johanna ハイデルベルク
 大学 Ph.D. Candidate
 日本における自閉症者を初めとする精神障害者の
 雇用
 受入教員 藤原准教授
- 期間 2020年1月14日～2020年6月30日
 ・RODRIGUES, Jamila Pacheco バーミンガム大
 学 Visiting Lecturer
 Shamanism through the body: yuta's women's
 shamanic narratives on embodied pain, collective
 wellbeing and spirit communication
 受入教員 石井准教授
- 期間 2020年3月8日～2020年5月8日

外国人研究生

- ・ 趙 晔
近代日本における中国労働者 — 人口移動という視点から
受入教員 村上准教授
期間 2017年10月1日～2020年3月31日
- ・ Vargha Attila
超境する日系2世アメリカ人のアイデンティティ
受入教員 竹沢先生
期間 2018年10月1日～2020年3月31日
- ・ 石垣 章子
漢訳仏典として位置付けられた疑偽経典の成立と思想の系譜
受入教員 船山教授
期間 2018年4月1日～2020年3月31日
- ・ 王 星
6～8世紀の華北における陶磁器の考古学的研究
受入教員 岡村教授
期間 2018年10月1日～2019年9月30日
- ・ 馬 延輝
『儀礼』学研究
受入教員 古勝准教授
期間 2019年4月1日～2020年3月31日
- ・ 陳 瑞峰
中国佛教疑偽経敦煌寫本識語の研究
受入教員 船山教授
期間 2019年5月1日～2020年5月31日
- ・ 趙 芙蝶
人文科学とデジタル デジタル人文プロジェクト ユーザー指向のデザイン
受入教員 Wittern 教授
期間 2019年10月1日～2020年9月30日
- ・ 曹 天江
秦漢魏晉時代における「計校」事務の研究
受入教員 宮宅教授
期間 2019年10月1日～2020年9月30日
- ・ Qianqing Huang
1920年代、30年代の日本における被差別部落
受入教員 竹沢教授

期間 2019年10月1日～2020年9月30日

- ・ 常 鈺熙
北宋時代における洛陽盆地の考古歴史学的研究
受入教員 岡村教授

期間 2019年10月1日～2020年9月30日

短期交流学生

- ・ 靳 健
京都大学人文科学研究所所蔵中国青銅器資料の学術的研究
受入教員 向井准教授
期間 2019年9月25日～2019年12月24日
- ・ 白 豆
日本所在資料からみた中国近世・近代災害史の研究
受入教員 向井准教授
期間 2019年9月25日～2019年12月24日
- ・ 石 曉潤
旧石器文化をめぐる日中比較研究 — 泥河湾盆地旧石器中期文化を起点として —
受入教員 向井准教授
期間 2019年9月25日～2019年12月24日

出 版 物

紀要

- ・ 人文学報 第113号（紀要第187冊）
2019年4月25日刊
- ・ 東洋学文献類目2017年度
2019年6月28日刊
- ・ 東方学報 94冊（紀要第189冊）
2019年12月20日刊
- ・ 人文学報 第114号（紀要第188冊）
2019年12月25日刊
- ・ ZINBUN number50
2020年3月刊

彙

報

研究報告その他

- ・ 字書十選 矢木毅編
2019年7月刊
- ・ 鱒澤彰夫氏寄贈資料目録：京都大学人文科学

研究所所蔵 京都大学人文科学研究所附属現代
中国研究センター編

2019年11月刊

- ・ 毛沢東に関する人文学的研究 石川禎浩編

2020年2月刊